

春日井市民病院年報

第4卷

(2017)

春日井市民病院

序

「春日井市民病院年報」の第4巻を出版することとなりました。平成28年度中には多くの職員が学会発表や論文発表を行ってくれました。全職員が意気軒昂であることの証左として受け止めたいと思います。実際、平成28年度の病院の医業収益は過去最高であり、経常利益で見ると、愛知県の自治体病院の中でトップの成績でありました。新病院に移ってから赤字の連続であったことを思うと隔世の感があります。職員が一丸となって努力した結果、地域住民の方々が当院を利用してくださったおかげですが、それだけ信頼を得た結果でもあると思います。紙面を借りて職員一同に御礼を申し述べたいと思います。

一方、この1年間は病院にとっても大きな節目となる1年でした。4月の診療報酬改定で看護必要度なるものが重点目標となり、従来は入院中の患者の15%を満たせばよかったものが突然25%に基準が上げられました。7対1基準看護を行っている病院が多く、そこが急性期病院を名乗って高額な医療提供をしていることが、医療費高騰の原因であるという穿った見方による改定でした。院長としては、病院完結型から地域完結型医療へと舵をとり、病病連携を通じ後方支援病院との協同作業を構想しておりましたので、7対1基準看護から離れることはできません。「当院は急性期病院として生き残る」と、職員に号令し、何とか基準をクリアして、現在に至っています。その他にも、8月には東海北陸厚生局による適時調査、9月には卒後臨床研修評価機構による更新審査、10月には日本病院機能評価機構による更新受審と、病院にとって大きな負担となる仕事が続きました。幸いにも、どの審査でも大きい問題点は指摘されず、適時調査に至っては、事前準備も周到でしたが、ほぼ完璧な対応ができたこと、日頃からの職員の努力の賜物と感動しました。4回目の病院機能評価等もあわせ振り返って見ますと、当院の屋台骨はかなりしっかりと構築されたと思います。しかし、慢心に陥ると、転落することは容易です。先人が築き上げてきた春日井マインドを継承して行っていただきたいと望むばかりです。団塊世代の高齢化を見据えた地域医療計画も策定されました。その解釈には疑義もありますが、世の中の大きな流れに逆らうことはできません。我々自身がNational Data Baseを積極的に利用して、地域の中で自院が置かれている位置をベンチマークとして評価し、足らぬ部分を補完する。どういう医療提供が今後必要となるかなどを複眼的思考で予測することが生き残りには重要です。「身体の大きいもののみが生き残れるわけではない。力の強いものでも、頭脳が優れているものでもない。生き残れるのは変革できるもののみである。」その点で当院の医療情報センターのノウハウは優れたもので、そのような解析ができる者が当院の各部署から輩出されることは、組織の強靱性と将来性を示すものです。私の強力なバックボーンでもあり、自慢です。

最期に、平成28年度の全国自治体学会に提出した学会報告の中から3題が優秀演題として表彰されました。職員の榮譽としてご報告申し上げます。来年も優れた研究が報告されることを祈念して、巻頭言とさせていただきます。

平成29年11月

院長 渡邊 有三

春日井市民病院の基本理念

春日井市民病院は自治体病院として地域の医療にかかわる要望に誠実かつ不断に応えることを存立の意義とする。

基本方針

- 1 人権の尊重によって築かれる相互の信頼のもとに、医療を受けられる方の意思が反映された医療を行います。
- 2 正当な根拠に基づく良質で高水準の医療を効率的に行うために絶えず研鑽します。
- 3 急性期医療の拡充と専門医療の推進に努めます。
- 4 地域の基幹病院として、医療機関、介護サービス事業者、保健・福祉行政との連携を密にして地域完結型医療を推進します。
- 5 公営企業として健全な経営に努めます。

診療を受ける皆様の権利と守っていただく事項

春日井市民病院では診療を受ける皆様と、私たち病院職員の双方が互いに尊敬し、信頼し、協力しあって、初めてよい医療の提供ができると考えています。

相互に信頼し協力しあって医療を行うために、私たち病院職員は皆様に次に掲げる権利を約束するとともに、守っていただく事項をお知らせします。

〔皆様の権利〕

- 1 人権を尊重され、プライバシーを守られて診療を受けること
- 2 自分の病気や診療内容について、十分な説明を受けること
- 3 治療を選択する権利と、同意できない診療を拒否すること
- 4 診断や治療について、他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）をきくこと

〔皆様に守っていただく事項〕

- 1 自らの健康状態や治療中に生じた問題について病院職員に伝えること
- 2 院内では静粛を保ち、大声を発したりして他の方々に迷惑をかけること
- 3 医療費の支払いの請求を受けたときは、すみやかにお支払ください

個人情報保護方針

春日井市民病院（以下「当院」という。）では地域の医療にかかわる要望に誠実かつ不断に応えることを基本理念とし、当院を利用する皆様と当院の職員が、相互信頼のもとに良質で高度な医療を提供しています。皆様の個人情報についても、適切に保護し、管理することが非常に重要であると考えております。

そのため、当院では次のとおり個人情報保護方針を定め、確実な履行に努めます。

1 個人情報の収集について

当院が当院を利用する皆様の個人情報を収集する場合は、診療、看護及び皆様の医療にかかわる範囲で行います。その他の目的で個人情報を収集する場合は、その利用目的をあらかじめお知らせし、同意を得た上で行います。

2 個人情報の利用及び提供について

当院は当院を利用する皆様の個人情報の利用及び提供については、次のいずれかに該当する場合を除き、本来の利用目的の範囲を超えません。

- (1) 本人の同意を得た場合
- (2) 法令等に基づく場合
- (3) 個人を識別あるいは特定できない状態に加工して利用する場合

3 個人情報の適正管理について

当院は当院を利用する皆様の個人情報について、正確かつ最新の状態に保ち、漏洩、紛失、破壊、改ざん等の未然防止に努めます。

4 個人情報の確認・修正等について

当院は当院を利用する皆様の個人情報について、皆様から開示を求められた場合、当院の「診療情報の提供についての指針」に従って対応します。また、内容が事実でない等の理由で訂正を求められた場合も、直ちに調査し、適切に対応します。

5 問い合わせ等の窓口について

個人情報保護方針や個人情報に関しての皆様のお尋ねについては、医事課でお聞きいたします。

6 法令等の遵守と見直しについて

当院は個人情報に関する法令や市条例その他の規範を遵守するとともに、この指針の各項目の見直しを適宜行い、個人情報を保護するために最善の努力をいたします。

平成28年7月1日

個人情報保護管理者

春日井市民病院 院長

目 次

院長挨拶

春日井市民病院の基本理念・基本方針

診療を受ける皆様の権利と守っていただく事項

個人情報保護方針

研究実績

受賞演題	1
著書	4
論文	5
寄稿等	7
国際学会	9
全国学会	9
地方学会・研究会	18
講演等	21
その他	22
地域研修会・交流会等	23
研修医CPC	27
剖検報告	28

病院概要

I 施設概要

1 沿革	29
2 歴代院長等	34
3 施設	36
4 施設基準等	37
5 各種指定医・指定医療機関等の状況	39
6 組織	41
7 職員数	42
8 主要医療器械備品	43

II 業務概要

1 入院者数	44
2 外来受診者数	46
3 入院・外来の患者構成と居住地区	48
4 医療連携事業	49
5 紹介・逆紹介患者数及び紹介率	49
6 救急患者受入状況	50
7 手術等件数	51
8 人工透析件数	52
9 分娩件数	52

10	剖検件数	52
11	栄養指導等件数	52
12	処方せん枚数、薬剤管理指導件数	52
13	検査件数	52
14	放射線撮影件数	53
15	各種検診等	53
16	がん相談支援センター相談件数	53
17	特殊外来の状況	54
18	入院患者数とクリニカルパス適用患者数	54
19	市民公開講座	55
Ⅲ	経理概要		
1	年度別収支状況		
	(1) 総括	56
	(2) 収益的収支	57
	(3) 資本的収支	58
2	貸借対照表	59
3	経営分析	62
	地域連携誌「Trinity」の発行	63
	病院新聞「さくら」の発行	64
	中日新聞「リンクト」LINKED	65
	市民病院フォトギャラリー	66

研究実績

<第55回全国自治体病院学会 優秀演題>
**当院救急外来におけるAMI患者の
 来院方法にかかわる特徴と、
 door-to-balloon-time短縮を
 めざした取り組み**

近藤 圭太¹⁾ 鈴木 祥子²⁾ 立沢 宏真³⁾
 脇田るり子³⁾ 加藤みどり³⁾ 小栗 光俊⁴⁾

¹⁾春日井市民病院 救急科
²⁾春日井市民病院 医事課
³⁾春日井市民病院 看護局
⁴⁾春日井市民病院 循環器科

【背景・目的】当院は昨年10月に救急救命センターに指定され現在3次救急を受け入れているが、地域基幹病院の責務として1次・2次救急も受け入れるER型救急診療体制をとっている。walk-in受診者にもACSや脳血管障害など緊急対応の必要な重篤症例が含まれており、トリアージが重要となってくる。今回我々は、ER受診したAMI患者の来院方法による特徴、STEMIにおいて循環器医callまでかかった時間、walk-in患者のNsトリアージの成果につき検討・評価した。

【方法】2015年4月1日から2016年3月31日の1年間に当院ERを受診したAMI患者101例中、転院搬送で循環器医が初期対応した9例を除く92例が対象。来院方法でwalk-in群（W群, 34.8%）と救急車群（A群, 65.2%）に分け比較検討、W群ではNsトリアージの効果も評価した。さらにSTEMI患者68例を対象に、来院から循環器医callまでの時間を10分以内の群（E, 76.5%群）と10分以上の群（D群, 23.5%）に分け比較検討した。

【結果】W群とA群で、STEMI、症状、ECGまでの時間は2群で有意差はないが、W群で有意に若く（ 62.9 ± 2.2 vs. 71.5 ± 1.4 , $p=0.0012$ ）、Killip分類IIIが少ない傾向にあった（3.1% vs. 18.3%, $p=0.0512$ ）。Nsトリアージ28例中、24例が緊急、3例が準緊急、1例が低緊急に区分、胸部症状のない患者が緊急区分されなかった。STEMIでは、D群で胸部症状のないもの（56.3% vs. 13.5%, $p=0.0014$ ）と回旋枝の梗塞（37.5% vs. 11.5%, $p=0.0447$ ）が有意に多く、受診方法で2群間に有意差はなかった。

【考察】walk-in受診した患者は比較的多く、救急搬送患者より若く、Killip分類では軽症、STEMIの割合

は変わらなかった。ACS疑いで10分以内に心電図検査施行し、特にSTEMIでは来院からPCIによる再還流までの時間（door-to-balloon-time）が90分以内が望ましいため、多くのwalk-in患者のなかから迅速に選別・診断し循環器医に託すことが大切である。来院後10分以内に心電図検査し、STEMIでは約10分程度後には循環器callしている症例を調べたところ、来院方法による有意差は認めず、Nsトリアージの効果と考えられた。循環器call遅延の主な要因は、症状が非典型的でAMIが疑われていない症例、AMIを疑い心電図検査してもNSTEMIや回旋枝の梗塞など心電図変化や心エコー所見がわかりにくい症例であった。これらの改善には、個人個人のスキル向上が必要で、救急外来を担当する医師・看護師を対象とした教育カリキュラムの整備も必要である。

<第55回全国自治体病院学会 優秀演題>
**人生の最終段階における
 医療相談体制の構築**

森本 優子²⁾ 鈴木 利恵²⁾ 柴田 美香²⁾
 山田 洋子²⁾ 渡邊 啓介³⁾ 會津 恵司¹⁾

¹⁾春日井市民病院 外科
²⁾春日井市民病院 看護局
³⁾春日井市民病院 リハビリテーション技術室

【目的】平成27年度人生の最終段階における医療の体制整備事業に参加し、人生の最終段階において望む医療やケアについての相談体制を構築した。意思決定支援により患者本人が主体的に考え、患者の思いを酌み、思いを地域へ繋ぐ環境を整備したので報告する。

【方法】相談体制は、プライマリー医療ケアチーム、エンド・オブ・ライフ（EOL）ケアチーム、倫理委員会を組織化し、相談支援は、モデル病棟として呼吸器科・腎臓内科（透析センターも兼務）の病棟から開始した。相談介入依頼または、相談員による患者のスクリーニングで介入患者を選び、プライマリー医療ケアチームによるカンファレンスで情報共有をした後に、主治医の病状説明時から相談員が介入する患者の思いを酌む相談支援フローを作成した。EOLケア相談シート、EOLケアサマリー、つなぐシートを作成し、患者・家族の揺れる思いを記録し地域へ繋いだ。また、事前指示書とその説明書を作成し希望者は記入を行った。

整備事業についての院内・院外にむけて伝達講習会を行った。

【結果】平成27年9月～平成28年2月までの相談介入件数は48例（男性34例、女性14例）であった。疾患別件数は、がん27例、慢性腎不全12例、COPD 4例、肺炎4例、非結核性好酸菌症1例であった。相談員の面談平均回数は3.1回、1回面談の平均時間28.9分、相談員のIC同席数46例、倫理カンファレンスを行った症例29例、倫理委員会への相談は無かった。事前指示書は17例（35.4%）が作成した。EOLケアサマリーは相談プロセスが詳細に伝わる書式とした。院内・院外に向けての相談員研修会の伝達講習を12回開催し計496名の参加があった。

【結論】急性期病院において、人生の最終段階における医療の相談体制を整備し相談支援を行うことができた。相談員は主治医の病状説明時に同席する事で、患者・家族からの信頼が得られ、意思決定支援が円滑になった。また、地域へ患者・家族の思いを繋ぐ場合は、合意形成の結果のみではなく、揺れる気持ちや意思決定プロセスがわかる内容にすることで、患者・家族の思いが伝わりやすいことがわかった。今後の課題として、地域住民が人生の最終段階における医療を主体的に考える事が出来るように市民への啓蒙活動や、患者の思いを酌み、繋ぎ、達成する為に、院内や地域での相談員育成が必要である。

<第55回全国自治体病院学会 優秀演題>
**春日井市民病院が取り組む
多職種連携システムの構築①**
～春日井さくらネットワークの
導入と運用構築～

後藤 慎一¹⁾ 佐々木洋光²⁾ 田辺 圭子²⁾
渡邊 有三³⁾

¹⁾春日井市民病院 医療情報センター

²⁾春日井市民病院 医療連携室

³⁾春日井市民病院 院長

【背景】地域医療構想・地域包括ケアシステムにおける当院の役割は、高度急性期・急性期医療を担い、地域の医療機関と連携し地域完結型医療を実現することである。超高齢化社会を迎える中で、急性期を脱した高齢患者が褥瘡、嚥下障害、糖尿病、がん等に問題を

抱えたまま在宅治療へ繋ぐケースが多く、在宅で療養する患者とその家族を支え、医療・福祉の連携強化を図りながら、多職種協働による包括的かつ継続的な在宅医療の提供が行われる体制整備が必要であった。当院スタッフと地域の多職種の情報共有手段は、主に電話・ファックス・メールである。しかし、電話は相手が不在の場合何度もかけ直す必要がある、ファックス・メールでは相手が見てくれたかどうか分からない、複数の職種とのやり取りが煩雑、患部や傷の写真共有ができない等の問題があった。これらの問題点を解決できるICT（情報通信技術）導入と運用が課題であった。

【目的】患者のプライバシー保護を厳重に図りながら、患者の診療・検査や日々のケア等の情報を当院スタッフと地域の医療機関、保険薬局、及び介護・障がい福祉サービス事業者が春日井さくらネットワーク（電子@連絡帳）で情報共有することにより、質の高い安全な診療と適切な療養環境の提供を目指す。

【システム構築方法と運用検討】院内の多職種からなるICTプロジェクトを立ち上げ、活用方法の検討を行った。皮膚排泄ケア・がん・糖尿病・認知症・摂食嚥下・透析等で退院後も当院認定看護師、薬剤師、理学療法士とかかりつけ医、訪問看護師、ケアマネジャー、保険薬局薬剤師等の連携が必要な患者を対象とした。また、医療連携協議会や訪問看護部会にて当院が導入するICT事業の説明を行った。ICT事業への賛同が得られた医療機関や訪問看護STへは当院職員が出向いて端末設定と利用説明を行った。連携開始までの手順としては、①患者又は家族への説明と同意取得、②連携医療機関への同意取得、③患者登録、④連携医療機関へのICTインストール、⑤支援チームの作成、⑥チーム介入開始の流れで運用を開始した。

【まとめ】ICT事業は一般的に行政や医師会を中心に導入されるケースが多く、自治体病院が中心となって導入したケースは愛知県下で初めてであった。自治体病院が中心となって導入することで、市内のみならず、医療圏全体を広域に繋ぎ、情報共有が実現できた。

<第44回日本救急医学会学術集会 優秀演題賞>

右下腹部痛を主訴に来院し 精巣捻転症の診断が遅れた一例

李 昌史¹⁾ 星野 伸²⁾

¹⁾春日井市民病院 研修医

²⁾春日井市民病院 小児科

【症例】 13歳、男子。

【経過】 主訴は右下腹部痛。現病歴はX日X日朝より右下腹部痛が出現し2回嘔吐したため救急外来受診した。臍部より右下腹部に移動する自発痛を認めたが、血液検査ではWBC 9800/ μ L、CRP 0.02mg/dLと炎症反応の上昇を認めず、単純CTで腸管浮腫を認めるも虫垂腫大は認めず、急性腸炎と診断し帰宅となった。8時間後、嘔吐が止まらず近医受診され嘔吐症で救急外来再度受診となる。CTを見返すと右陰嚢腫大を認めた。エコーでも精巣の血流が乏しく、精巣捻転症と診断され、緊急手術となった。

【考察】 精巣捻転症は思春期に多く診られる急性陰嚢症で、精巣温存のためのgolden timeは6～8時間である。捻転が疑われれば早急に観血的治療を行う必要がある。症状としては陰嚢の急激な激痛や腫脹を呈し、腹痛、嘔吐などの腹膜刺激症状などを伴うことが多い。本症例は痛みが虫垂炎に似ていたこと、患者が陰のう痛を訴えていなかったこと、CTで陰嚢までの読影を怠ったこと、思春期であるために陰嚢の診察を遠慮したことが重なり、診断が遅れた。

【結語】 本症例により小児の急性腹症において身体所見で陰嚢まで含めて診察することの重要性を再認識した。

【症例1】 22歳、男性。2013年1月5日から腹痛出現。1月7日未明より腹痛が悪化し近医受診。血液検査所見にてWBC12000/ μ L CRP15.36mg/dLと炎症反応高値を認め、腹部骨盤部単純CTにて右季肋部腹腔内に脂肪織濃度上昇とその中心部に血管の渦巻状所見を認めたため、大腸捻転と診断した。外科コンサルトし、緊急手術となった。右上腹部の腹壁に癒着し壊死している大綱も認めたため、癒着を剥離し壊死大綱の部分を切除した。術後経過は順調であり、術後5日目に退院した。

【症例2】 20歳、男性。2015年月初旬から心窩部痛が出現したが様子を見ていた。3月20日に部位が右下腹部に移動し、腹痛の悪化を認めたため、当院受診。腹部骨盤部単純CTで上行結腸腹側腸間膜の脂肪織濃度上昇を認めたが、血液検査所見では炎症反応の軽度上昇のみであったため上行結腸炎疑いにて経過観察とした。その後も腹痛の改善を認めないため、3月23日に当院再診し、腹部骨盤部単純CTと血液検査の炎症反応は著変ないものの、反跳痛と筋性防御が出現したため大腸捻転疑いにて入院加療とした。絶食・LVFX内服にて保存的治療を行ったが、腹痛の改善が認められないため、入院3日目に外科コンサルトにより、緊急手術となった。大綱が上行結腸と右下腹壁に癒着して腹壁の癒着部から捻転している所見を認め、捻転部より末梢側の鬱血がみられ、癒着部の大綱剥離を行った。術後問題なく、術後6日目に退院した。

【結語】 特発性大綱捻転症は稀な疾患であり、術前診断が困難とされている。腹部骨盤部単純CTにて術前診断し得た2例を経験したため、若干の文献的考察を加え報告する。

<第124回日本消化器病学会東海支部例会 専修医奨励賞>

術前CT検査で診断可能であった 特発性大綱捻転症の2例

隈井 大介¹⁾ 平田 慶和¹⁾ 岡山 幸平¹⁾

山本 友輝¹⁾ 小島 悠揮¹⁾ 松本 朋子¹⁾

管野 琢也¹⁾ 木村 幹俊¹⁾ 奥田 悠介¹⁾

羽根田賢一¹⁾ 池内 寛和¹⁾ 祖父江 聡¹⁾

望月 寿人¹⁾ 高田 博樹²⁾

¹⁾春日井市民病院 消化器科

²⁾春日井市民病院 内視鏡センター

著書

- 総合診療医テキスト 緩和医療・終末期ケア
(中山書店) 252~256, 2017

2章 終末期ケア 慢性腎不全 —血液透析非導入という対処方法—

渡邊 有三
春日井市民病院 院長

- 腎と透析 診療指針 2016
(株式会社東京医学社) 548~551, 2016

第17章 腎代替療法(腎移植を除く) 2. 血液透析導入基準

渡邊 有三
春日井市民病院 院長

- 透析患者診療に役立つ診断と重症度判定のためのアプローチ
(株式会社日本メディカルセンター) 169~171, 2016

II 臓器別のアプローチ—腎臓 9 血液透析導入

渡邊 有三
春日井市民病院 院長

- レジデントノート増刊 神経内科がわかる、好きになる
(羊土社) 3105~3112, 2017

第3章 神経疾患を病歴聴取と身体 所見で鑑別する！

安藤 孝志 寺尾 心一
春日井市民病院 神経内科

- 薬のエキスパートが教える薬の使い方×エビデンスの調べ方
(じほう) 180~188, 2017

第2章 ワンランク上の医薬品情報 の収集・活用術

2. 知らないと困る医薬品情報の基本 —インタビューフォーム、RMP

伊東 和真 坂田 洋
春日井市民病院 薬剤部

- Therapeutic apheresis and dialysis. 2016 Dec;20 (6) : 598~607

Effect of Predialysis Recombinant Human Erythropoietin on Early Survival After Hemodialysis Initiation in Patients With Chronic Kidney Disease: Co-JET Study

Yuzo Watanabe¹⁾, Tadao Akizawa²⁾, Akira Saito³⁾, Fumitake Gejyo⁴⁾, Masashi Suzuki⁵⁾, Yoshiki Nishizawa⁶⁾, Yasuhiko Tomino⁷⁾, Yoshiharu Tsubakihara^{8,9)}, Takashi Akiba¹⁰⁾, Hideki Hirakata¹¹⁾, Hideki Kawanishi¹²⁾, Masami Bessho¹³⁾, Yukio Udagawa¹⁴⁾, Kotonari Aoki¹⁴⁾, Yukari Uemura¹⁵⁾, Yasuo Ohashi¹⁶⁾ and the Co-JET Study Group

¹⁾Department of Internal Medicine, Kasugai Municipal Hospital, Kasugai, Aichi, Japan.

²⁾Department of Nephrology, Showa University School of Medicine, Shinagawa-ku, Tokyo, Japan.

³⁾Department of Nephrology, Shonan Tobu Sogou Hospital, Chigasaki, Kanagawa, Japan.

⁴⁾Niigata University Graduate School of Medicine and Dental Sciences, Chuoku, Niigata, Niigata, Japan.

⁵⁾Shinraku-en Hospital, Nishi-ku, Niigata, Niigata, Japan.

⁶⁾Osaka City University Graduate School of Medicine, Abeno, Osaka, Japan.

⁷⁾Juntendo University Faculty of Medicine, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan.

⁸⁾Course of Safety Management in Health Care Sciences, Graduate School of Health Care Sciences, Jikei Institute, Yodogawa-ku, Osaka-shi, Japan.

⁹⁾Osaka, Japan.

¹⁰⁾Department of Blood Purification, Kidney Center, Tokyo Women's Medical University, Shinjyuku-ku, Tokyo, Japan.

¹¹⁾Department of Nephrology, Fukuoka Red Cross Hospital, Minami-ku, Fukuoka, Fukuoka, Japan.

¹²⁾Department of Artificial Organs, Tsuchiya General Hospital, Naka-ku, Hiroshima, Hiroshima, Japan.

¹³⁾Department of Hematology, Saitama Medical School, Moroyama-cho, Iruma-gun, Saitama, Japan.

¹⁴⁾Pharmacovigilance Department, Chugai

Pharmaceutical Co., Ltd., Chuo-ku, Tokyo, Japan.

¹⁵⁾Biostatistics Division, Clinical Research Support Center, The University of Tokyo Hospital, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan.

¹⁶⁾Department of Integrated Science and Engineering for Sustainable Society, Chuo University, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan.

- 神経内科2016 Vol.84 (4) 423~424

硬膜穿刺後頭痛の脊髄MRI所見

安藤 孝志¹⁾ 荒木 周¹⁾ 富田 均²⁾
寺尾 心一¹⁾

¹⁾春日井市民病院 神経内科

²⁾春日井市民病院 放射線科

- Neurology and Clinical Neuroscience. Volume 4, Issue 6, November 2016, Page 243

Bilateral internal capsule lesions in uremic encephalopathy

Takashi Ando¹⁾, Amane Araki¹⁾, Shinichi Terao¹⁾, Yosuke Saka²⁾

¹⁾Department of Neurology, Kasugai Municipal Hospital, Kasugai, Aichi, Japan.

²⁾Department of Internal Medicine, Kasugai Municipal Hospital, Kasugai, Aichi, Japan.

- Journal of cardiology. 2016 Nov;68 (5) : 379~383

Clinical characteristics of patients hospitalized for acute heart failure according to hospital arrival timing.

Oguri M¹⁾, Ishii H²⁾, Yasuda K³⁾, Kawanishi H³⁾, Hanaki Y⁴⁾, Kamiya H³⁾, Matsubara T⁵⁾, Murohara T²⁾

¹⁾Department of Cardiology, Kasugai Municipal Hospital, Kasugai, Japan.

²⁾Department of Cardiology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan.

³⁾Department of Cardiology, Japanese Red Cross Nagoya First Hospital, Nagoya, Japan.

⁴⁾Emergency and Critical Care Medicine, Japanese Red Cross Nagoya First Hospital, Nagoya, Japan.

⁵⁾Department of Internal Medicine, School of Dentistry, Aichi Gakuin University, Nagoya, Japan.

- **Biomedical reports. 2017 Feb;6 (2) :**
242~250

Obesity-related changes in clinical parameters and conditions in a longitudinal population-based epidemiological study.

Oguri M¹⁾, Fujimaki T²⁾, Horibe H³⁾, Kato K⁴⁾,
Matsui K⁵⁾, Takeuchi I⁶⁾, Yamada Y⁷⁾.

¹⁾Department of Cardiology, Kasugai Municipal Hospital, Kasugai, Aichi, Japan.

²⁾Department of Cardiovascular Medicine, Inabe General Hospital, Inabe, Mie, Japan.

³⁾Department of Cardiovascular Medicine, Gifu Prefectural Tajimi Hospital, Tajimi, Gifu, Japan.

⁴⁾Department of Internal Medicine, Meitoh Hospital, Nagoya, Aichi, Japan.

⁵⁾Department of Biostatistics, Graduate School of Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan.

⁶⁾Department of Computer Science, Graduate School of Engineering, Nagoya Institute of Technology, Nagoya, Aichi, Japan; Core Research for Evolutionary Science and Technology (CREST) , Japan Science and Technology Agency, Kawaguchi, Saitama, Japan.

⁷⁾Core Research for Evolutionary Science and Technology (CREST) , Japan Science and Technology Agency, Kawaguchi, Saitama, Japan; Department of Human Functional Genomics, Life Science Research Center, Mie University, Tsu, Mie, Japan.

- **Lancet. 2016 Jul 16;388 (10041) :**
248~57

Adjuvant chemotherapy of S-1 versus gemcitabine for resected pancreatic cancer: a phase 3, open-label, randomised, non-inferiority trial (JASPAC 01)

Uesaka K¹⁾, Boku N²⁾, Fukutomi A¹⁾,
Okamura Y¹⁾, Konishi M³⁾, Matsumoto I⁴⁾,
Kaneoka Y⁵⁾, Shimizu Y⁶⁾, Nakamori S⁷⁾,
Sakamoto H⁸⁾, Morinaga S⁹⁾, Kainuma O¹⁰⁾,
Imai K¹¹⁾, Sata N¹²⁾, Hishinuma S¹³⁾, Ojima H¹⁴⁾, Yamaguchi R¹⁵⁾, Hirano S¹⁶⁾, Sudo T¹⁷⁾,
Ohashi Y¹⁸⁾; JASPAC 01 Study Group.

¹⁾Shizuoka Cancer Center Hospital, Shizuoka,

Japan.

²⁾National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan.
Electronic address: nboku@ncc.go.jp.

³⁾National Cancer Center Hospital East, Kashiwa, Japan.

⁴⁾Kobe University Graduate School of Medicine, Kobe, Japan.

⁵⁾Ogaki Municipal Hospital, Ogaki, Japan.

⁶⁾Aichi Cancer Center Hospital, Nagoya, Japan.

⁷⁾Osaka National Hospital, Osaka, Japan.

⁸⁾Saitama Cancer Center, Saitama, Japan.

⁹⁾Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan.

¹⁰⁾Chiba Cancer Center, Chiba, Japan.

¹¹⁾Asahikawa Medical University, Asahikawa, Japan.

¹²⁾Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan.

¹³⁾Tochigi Cancer Center, Utsunomiya, Japan.

¹⁴⁾Gunma Prefectural Cancer Center, Ota, Japan.

¹⁵⁾Kasugai Municipal Hospital, Kasugai, Japan.

¹⁶⁾Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan.

¹⁷⁾National Hospital Organization Kure Medical Center, Kure, Japan.

¹⁸⁾Chuo University, Tokyo, Japan.

- **British Journal of Surgery. Volume 104,**
Issue 4, March 2017, Pages 426~433

Recurrence after resection with curative intent for distal cholangiocarcinoma

K. Komaya¹⁾, T. Ebata¹⁾, K. Shirai³⁾, S.
Ohira⁴⁾, N. Morofuji⁵⁾, A. Akutagawa²⁾, R.
Yamaguchi⁶⁾ and
M. Nagino¹⁾, on behalf of the Nagoya
Surgical Oncology Group

¹⁾Division of Surgical Oncology, Department of Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine

²⁾Department of Surgery, Nagoya Ekisaikai Hospital, Nagoya

³⁾Department of Surgery, Yamashita Hospital, Ichinomiya

⁴⁾Department of Surgery, Handa City Hospital, Handa

⁵⁾Department of Surgery, The Gifu Prefectural Federation of Agricultural Cooperatives for Health and Welfare Kumiai Hospital, Takayama

⁶⁾Department of Surgery, Kasugai Municipal Hospital, Kasugai, Japan

- 日本臨床外科学会雑誌. 77 (2), 307~311, 2016

ベバシズマブ治療中急速拡大・破裂した腹部大動脈瘤の1例

湯川 貴史 井原 努 山口 竜三
春日井市民病院 外科

- 全国自治体病院協議会雑誌

人生の最終段階における医療相談体制整備の構築

森本 優子
春日井市民病院 看護局

- Journal of Japanese Society of Hospital Pharmacists 2016 (10)

A Study for Practical Use of the Japanese Adverse Drug Event Report Databases for Making of Risk Management Plan in the Healthcare Center

Hiroshi Sakata¹⁾, Atsushi Suzuki¹⁾, Yukari Inagaki¹⁾, Daigo Suzuki¹⁾, Yoshiaki Hattori¹⁾, Tsuyoshi Maeda¹⁾, Takamasa Sakai²⁾, Kouichi Tanabe²⁾, Fumiko Otsu²⁾, Nobuyuki Goto²⁾

¹⁾Department of Pharmacy, Kasugai Municipal Hospital.

²⁾Drug Informatics, Meijo University Faculty of Pharmacy.

- 日本臨床検査自動化学会会誌 Vol.41 (2)

実践、POCコーディネータ！ ～血糖装置管理から始め、遭遇した課題とその展開～

後藤 慎一
春日井市民病院 医療情報センター

寄稿等

- 腎不全を生きる：Vol.54 41~42, 2016

患者さんからの質問箱 クスリ：リン吸着薬と便秘

渡邊 有三
春日井市民病院 院長

- 調剤と情報 2016年8月号 vol.22 No.10

薬薬連携コンソシアムで薬剤師力アップ

鈴木 大吾 坂田 洋
春日井市民病院 薬剤部

- 薬働 Vol.3 2016

特集「薬剤師としての能力をとことん磨き医療の質向上に貢献して欲しい」

坂田 洋
春日井市民病院 薬剤部

- 薬働 Vol.3 2016

現在のCAREER 病院薬剤師「感染症の方針を医師と対等に話し合える薬剤師へ」

中崎みづき
春日井市民病院 薬剤部

- 薬働 Vol.3 2016

資格取得 がん専門薬剤師「薬剤師としてがん領域を極め個々の患者さんに応じた医療推進に貢献したい」

鈴木 敦詞
春日井市民病院 薬剤部

●薬働 Vol.3 2016

6年生卒先輩「患者さんの生活に深く関わり生活習慣病の改善に力を尽くしたい」

家崎光太郎

春日井市民病院 薬剤部

●Pharma Scope Vol.23 2016

「診療情報提供書」を活用した保険薬局との情報共有

坂田 洋 服部 芳明 田中 伸明

大岩 拓馬

春日井市民病院 薬剤部

●CDEJ News Letter 第51号：10, 2016

行政と連携した「世界糖尿病デー in 春日井」の開催
～春日井市民病院の取り組み～

服部 芳明

春日井市民病院 薬剤部

●臨床検査 第61巻 第3号

特集2 在宅現場でのPOCTへの期待「在宅医療における品質管理のためのIT活用」

後藤 慎一

春日井市民病院 医療情報センター

国際学会

●内科

学会名／演題	氏名	年月／場所
The 8th Asia Pacific Chapter Meeting of International Society for Peritoneal Dialysis Quality of life of elderly patients on peritoneal dialysis versus hemodialysis: A single-center study	坂 洋祐	2017年3月 中国

●循環器科

学会名／演題	氏名	年月／場所
European Society of Cardiology Congress 2016 Association of genetic variants with coronary artery disease and ischemic stroke in a longitudinal population-based genetic epidemiological study	小栗 光俊	2016年8月 イタリア
European Society of Cardiology Congress 2016 Obesity-related changes in clinical parameters and conditions in a longitudinal population-based epidemiological study	小栗 光俊	2016年8月 イタリア
European Society of Cardiology Congress 2016 Association of genetic variants with dyslipidemia and chronic kidney disease in a longitudinal population-based genetic epidemiological study	小栗 光俊	2016年8月 イタリア

●整形外科

学会名／演題	氏名	年月／場所
17th ESSKA Congress Comparison of the rotational instability in anterior cruciate ligament deficient patients using an inertial sensor	村瀬 熱紀	2016年5月 スペイン
17th EFORT Congress Load Evaluation In The Rehabilitation After The Osteosynthesis For Proximal Hip Fractures	鈴木 浩之	2016年5月 スイス

●消化器科

学会名／演題	氏名	年月／場所
APDW2016 Long-term outcome of transanal colorectal tube for distal stage II/III colorectal cancer with acute colorectal obstruction	奥田 悠介	2016年11月 兵庫県
JDDW2016 当院における胃粘膜下腫瘍に対する粘膜切開生検の検討	木村 幹俊	2016年11月 兵庫県

全国学会

●院長

学会名／演題	氏名	年月／場所
第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 久留米 慢性腎不全患者さんの在宅終末期ケア	渡邊 有三	2016年2月 福岡県

●内科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第59回日本腎臓学会学術集会 尿路感染症に伴う急性間質性腎炎の検討	永原 靖子	2016年6月 神奈川県
第46回日本腎臓学会西部学術学術集会 Golimumab投与後にループス腎炎が急速に悪化したSLE+RA患者の一例	坂 洋祐	2016年10月 宮崎県
第46回日本腎臓学会西部学術学術集会 管内増殖性糸球体腎炎治療後、1年経過したのちに微小変化型ネフローゼ症候群を発症した1例	谷口 容平	2016年10月 宮崎県
第61回日本透析医学会学術集会・総会 高齢者における腹膜透析と血液透析の比較	坂 洋祐	2016年6月 大阪府
第61回日本透析医学会学術集会・総会 慢性維持透析患者の十二指腸穿孔に対して保存的治療が奏功した1例	峠田 直人	2016年6月 大阪府
第22回日本腹膜透析医学会学術集会・総会 シャント再建困難で紹介された高齢者の1例 ～当院での高齢者PD導入をふまえて～	山下 良子	2016年9月 北海道
第59回日本糖尿病学会学術集会 コントロール不良症例へのSGLT2阻害薬追加投与において体組成検査の治療効果に与える影響	佐々木洋光	2016年5月 京都府

●神経内科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第41回日本脳卒中学会総会 重症度と治療開始時間による脳梗塞t-PA治療の効果	敷田 知之	2016年4月 北海道
第57回日本神経学会学術大会 脳梗塞t-PA静注療法における院内所要時間の推移	遠藤 利洋	2016年5月 兵庫県
第57回日本神経学会学術大会 脳梗塞軽症例におけるt-PA静注療法の検討	鳥居 良太	2016年5月 兵庫県
第34回日本神経治療学会総会 脳梗塞軽症例に対するrt-PA静注療法の有効性	遠藤 利洋	2016年11月 鳥取県
第42回日本脳卒中学会総会 —STROKE 2017— 軽症から中等症の脳梗塞患者におけるrt-PA治療の効果	遠藤 利洋	2017年3月 大阪府
第42回日本脳卒中学会総会 —STROKE 2017— 発症時刻からみた脳梗塞rt-PA治療の検討	鳥居 良太	2017年3月 大阪府

●呼吸器科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第39回日本呼吸器内視鏡学会学術集会及び第28回気管支鏡セミナー 結核性胸膜炎の診断における局所麻酔下胸腔鏡検査の有用性についての検討	大立 知子	2016年6月 名古屋市
第57回日本肺癌学会学術集会 胃転移を伴った未分化胸腺癌の1例	大立 知子	2016年12月 福岡県

●消化器科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第13回日本消化管学会総会学術集会 保存的治療に難渋したケイキサレート関連腸炎の一例	岡山 幸平	2017年2月 名古屋市

学会名／演題	氏名	年月／場所
第13回日本消化管学会総会学術集会 omparison between transanal colorectal tube and emergency surgery about Long-term outcome for distal stage II/III colorectal cancer with acute colorectal obstruction	奥田 悠介	2017年2月 名古屋市
第13回日本消化管学会総会学術集会 大腸憩室出血の治療戦略に対する造影CTの有用性の検討	管野 琢也	2017年2月 名古屋市
第13回日本消化管学会総会学術集会 行食道癌に対するFP療法施行中にSIADHを発症した1例	小島 悠揮	2017年2月 名古屋市
第13回日本消化管学会総会学術集会 当院における胃粘膜下腫瘍の診断法の検討 EUS-FNAとMCBの比較	平田 慶和	2017年2月 名古屋市

●循環器科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第113回日本内科学会総会 当院における独居急性心不全入院患者の臨床像の検討	滝川 智信	2016年4月 東京都
第113回日本内科学会総会 17歳の冠攣縮性狭心症の一例	原田 貴仁	2016年4月 東京都
第113回日本内科学会総会 都市近郊部におけるStanford A型急性大動脈解離の転院搬送の実情	墨 卓哉	2016年4月 東京都
第81回日本循環器学会総会 Prognostic utility of multipoint nutritional screening in hospitalized patients with acute decompensated heart failure	滝川 智信	2017年3月 石川県
第81回日本循環器学会総会 The prognostic importance of multiple nutrition screening indexes for 1-year mortality in patients hospitalized for acute heart failure	滝川 智信	2017年3月 石川県
第81回日本循環器学会総会 Impact of optimal medical therapy on one-year outcomes in acute decompensated heart failure	河村 吉宏	2017年3月 石川県
第81回日本循環器学会総会 Comparative analysis of hospitalization costs with or without do-not-resuscitate orders in patients admitted for acute decompensated heart failure	河村 吉宏	2017年3月 石川県
第81回日本循環器学会総会 Prognostic Value of Marital Status in Elderly Patients with Acute Decompensated Heart Failure	森 寛暁	2017年3月 石川県

●小児科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第48回日本小児科感染症学会 プロカルシトニン陽性の生後6か月未満の乳児81例の検討	星野 伸	2016年11月 岡山県
第119回日本小児科学会 休日・平日夜間診療所が併設された当院救急外来における小児科診療の検討	前田 徹	2016年5月 北海道

●外科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会 Three cases treated with percutaneous for postoperative bile duct stricture	渡邊 真哉	2016年6月 大阪府
第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会 当科における膵空腸2層吻合の工夫	三輪 知弘	2016年6月 大阪府
第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会 膵臓内を走行する肝動脈の破格を伴った症例に対し、肝動脈を温存し膵頭十二指腸切除（PD）を施行した3例	三竹 泰弘	2016年6月 大阪府
第24回日本乳癌学会学術総会 「愛知県内統一乳がん地域連携クリニカルパス」の取り組み—運用とバリエーション、パス落ち症例について—	古田 美保	2016年6月 東京都
第71回日本消化器外科学会総会 左側大腸癌イレウスに対する2期的切除の短期成績	三竹 泰弘	2016年7月 徳島県
第14回日本臨床腫瘍学会学術集会 高度腋窩リンパ節転移症例の術後予後における検討	古田 美保	2016年7月 兵庫県
第52回日本胆道学会学術集会 腹腔鏡下胆嚢摘出術後の胆管狭窄の治療と長期経過	山口 竜三	2016年9月 神奈川県
第52回日本胆道学会学術集会 術前診断に難渋したAFP産生胆嚢癌の1例	渡邊 真哉	2016年9月 神奈川県
第52回日本胆道学会学術集会 胆嚢癌との鑑別が困難であったIgG4関連硬化性胆管炎の3切除例	三竹 泰弘	2016年9月 神奈川県
第52回日本胆道学会学術集会 胆嚢癌術後再発による拳上空腸狭窄に対し、経皮的にself expandable metal stentを留置した1例	宮村 径	2016年9月 神奈川県
第78回臨床外科学会総会 人生の最終段階における医療体制整備	會津 恵司	2016年11月 東京都
第78回日本臨床外科学会総会 超高齢者における肝胆膵悪性腫瘍手術の検討	佐藤 文哉	2016年11月 東京都
第78回日本臨床外科学会総会 盲腸憩室穿孔により右下肢壊死性筋膜炎を生じた一例	有元 淳記	2016年11月 東京都
第78回日本臨床外科学会総会 当院における急性胆嚢炎に対する治療方針	宮村 径	2016年11月 東京都
第78回日本臨床外科学会総会 若年者の同時性多発大腸癌術後に脳腫瘍を発症した1例	篠田 幸樹	2016年11月 東京都
第29回日本内視鏡外科学会総会 腹腔鏡下肝尾状葉亜区域切除（S11）を施行した肝細胞癌の1例	佐藤 文哉	2016年12月 神奈川県
第29回日本内視鏡外科学会総会 腹腔鏡下に切除した右胃大網動脈未破裂動脈瘤の一例	有元 淳記	2016年12月 神奈川県
第29回日本内視鏡外科学会総会 メッシュ使用再発ヘルニアに対しTAPPを施行した症例の検討	渡邊 真哉	2016年12月 神奈川県

●整形外科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第42回日本骨折治療学会 大腿骨頸部骨折に対するTwins®の使用経験	鈴木 浩之	2016年6月 東京都
第42回日本骨折治療学会 VA-LCP Volar Rim Distal Radius Plateの治療経験	福島 裕晃	2016年6月 東京都
第42回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会 nerttial sensorを使用したPivot shift testの定量評価	村瀬 熱紀	2016年9月 北海道
第55回全国自治体病院学会 in 富山 大腿骨頸部骨折に対する骨接合術の検討	鈴木 浩之	2016年10月 富山県
第47回日本人工関節学会 骨盤ガイドを使用したTHAのカップ設置の検証	村瀬 熱紀	2017年2月 沖縄県
第47回日本人工関節学会 人工骨頭挿入術におけるDAA法とPL法のステム前捻角の術後評価と短期成績	松澤 良	2017年2月 沖縄県
第47回日本人工関節学会 輸液製剤の過量充填が術中出血量に及ぼす影響	福島 裕晃	2017年2月 沖縄県

●脳神経外科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第41回日本脳卒中学会総会 右瞳孔散大を主訴に発見された左前床突起部dural AVFの一例	林 重正	2016年4月 北海道
第41回日本脳卒中学会総会 内頸動脈血栓化動脈瘤から視床下部性下垂体機能不全を呈した1例	林 重正	2016年4月 北海道
第41回日本脳卒中学会総会 当院での頸動脈ステント留置術の治療成績と課題	内藤 丈裕	2016年4月 北海道

●皮膚科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第32回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 隆起性腫瘍を呈したPlasmacytoid dendritic cell neoplasmの一例	小田 隆夫	2016年5月 鹿児島
第115回日本皮膚科学会総会 Facial aesthetic unitで分類した顔面に生じる皮膚悪性腫瘍の特徴	小田 隆夫	2016年6月 京都府

●眼科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第70回日本臨床眼科学会 増殖糖尿病網膜症手術時のトリアムシノロンテノン嚢下注射の周辺部網脈絡膜厚への効果	藤原 圭人	2016年11月 京都府

●耳鼻咽喉科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第55回日本鼻科学会総会・学術講演会 鼻腔に発生したAlveolar soft part sarcomaの一例	佐藤 雄二	2016年10月 栃木県

●リハビリテーション科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第42回日本骨折治療学会 第5CM 関節中心性脱臼を伴った有鉤骨前額面骨折に対する内側アプローチによる観血的整復術	久保田雅仁	2016年7月 東京都

●麻酔科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第44回日本集中治療医学会学術集会 Off-pump CABG後における心拍変動のdeceleration capacityとacceleration capacityについて	高橋 利通	2017年3月 北海道
第44回日本集中治療医学会学術集会 シンポジウム：集中治療における医療倫理を多職種間で考えるDNAR (Do Not Attempt Resuscitation) 指示の倫理的課題と改善策	森田 麻己	2017年3月 北海道

●口腔外科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第70回日本口腔科学会学術集会 口腔癌に対する超選択的動注化学放射線療法後の頸部リンパ節に関する臨床的検討	丹下 和久	2016年4月 福岡県
第40回日本頭頸部癌学会 口腔癌の超選択的動注化学放射線療法後の頸部リンパ節制御に関する検討	丹下 和久	2016年6月 埼玉県
第40回日本頭頸部癌学会 当科における舌癌に対する超選択的動注化学放射線療法の臨床的検討	脇田 壮	2016年6月 埼玉県
第61回日本口腔外科学会総会・学術大会 リンパ節制御の観点からみた上顎歯肉癌に対する超選択的動注化学放射線療法の特徴	丹下 和久	2016年11月 千葉県
第61回日本口腔外科学会総会・学術大会 動注化学放射線療法後の頬粘膜患者に発症した急性呼吸促迫症候群 (ARDS) の1例	小原圭太郎	2016年11月 千葉県
第35回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会 口腔癌に対する超選択的動注療法におけるカテーテル留置時に血管破綻した3例	丹下 和久	2017年1月 福岡県
第35回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会 当科における進行上顎がんに対する超選択的動注化学放射線療法の臨床的検討	脇田 壮	2017年1月 福岡県

●救急科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第55回 全国自治体病院学会 当院救急外来におけるAMI患者の来院方法にかかわる特徴と、door-to-balloon-time短縮をめざした取り組み	近藤 圭太	2016年10月 富山県
第44回 日本救急医学会総会 STEMIにおけるdoor-to-balloon-timeのさらなる短縮をめざして～救急医から循環器医への巧みなバトンタッチ～	近藤 圭太	2016年11月 東京都
第44回 日本救急医学会総会 嘔吐を主訴に来院した胃軸捻転の一例	原田 貴仁	2016年11月 東京都

学会名／演題	氏名	年月／場所
第44回 日本救急医学会総会 右下腹部痛を主訴に来院し精巣捻転症の診断が遅れた一例	李 昌史	2016年11月 東京都

●病理部

学会名／演題	氏名	年月／場所
第105回日本病理学会総会 胸腺腫の病理 — WHO分類改訂をめぐって	立山 尚	2016年5月 宮城県

●看護局

学会名／演題	氏名	年月／場所
第47回日本看護学会—在宅看護—学術集会 地域包括ケアシステムにおける認定看護師の役割 —看看連携を通しての気づき—	細野美穂子	2016年8月 高知県
第47回日本看護学会—看護管理—学術集会 看護師長が抱く非管理職ベテラン看護師への期待	鈴江 智恵	2016年9月 石川県
第47回日本看護学会—看護管理—学術集会 看護師職員が専門性の高い業務に専念するために —病棟アテンダントの配置を試みて—	田垣美紀子	2016年9月 石川県
第47回日本看護学会—慢性期看護—学術集会 看護師が糖尿病患者の療養支援をする上で重要視していること	鈴木 香里	2016年11月 鳥取県
第18回日本救急看護学会学術集会 ER看護師における脳梗塞急性期のNIHSS評価の現状と今後の課題について	立澤 宏真	2016年10月 千葉県
第55回全国自治体病院学会 介入方法の違いは知識の定着に影響するか ～ファシリテーションとインストラクションを比較して～	河合 豊	2016年10月 富山県
第55回全国自治体病院学会 人生の最終段階における医療相談体制整備の構築	森本 優子	2016年10月 富山県

●薬剤部

学会名／演題	氏名	年月／場所
第19回医薬品情報学会 有害事象自発報告データベースを用いた抗ヒスタミン薬による痙攣発作のシグナル評価	土屋絵梨果	2016年6月 東京都
第19回医薬品情報学会 有害事象自発報告データベースの重複症例が与える影響についての検討	水草 博希	2016年6月 東京都
第19回日本乳癌学会学術総会 乳がんにおけるFEC療法時の悪心嘔吐観察研究（第2報）	前田 剛司	2016年6月 東京都
医療薬学フォーラム2016/第24回クリニカルファーマシーシンポジウム ワルファリン投与患者においてPT-INR延長時のビタミンK投与の使用状況調査	加藤麻理乃	2016年6月 滋賀県
医療薬学フォーラム2016/第24回クリニカルファーマシーシンポジウム 保険薬局における薬剤性副腎皮質低下症に対する意識調査	田中 伸明	2016年6月 滋賀県
第2回日本医薬品安全性学会学術大会 入院時常用薬調査におけるアピキサバン投与量の実態調査	浅野 嘉之	2016年7月 岐阜市

学会名／演題	氏名	年月／場所
第14回日本臨床腫瘍学会学術集会 薬剤師外来におけるEGFR-TKI治療の副作用とその管理	鈴木 敦詞	2016年7月 京都府
第26回日本医療薬学会年会 春日井市民病院におけるカンジダ血流感染症に対する抗真菌薬の使用状況	家崎光太郎	2016年9月 京都府
第26回日本医療薬学会年会 データウェアハウス (DWH) を用いた薬剤師外来業務支援アプリケーションの開発	水草 博希	2016年9月 京都府
第54回日本癌治療学会学術集会 経口抗がん薬におけるCDTMに基づいた薬剤師外来業務支援システムの構築	鈴木 敦詞	2016年10月 神奈川県
日本くすりと糖尿病学会 新規持続型Glucagon-like peptide-1 (GLP-1) 製剤デュラグルチドの使用状況調査	服部 芳明	2016年10月 兵庫県
第10回日本腎臓病薬物療法学会 当院での10年間の腎排泄型薬剤への情報提供状況について	大岩 拓馬	2016年11月 兵庫県

●臨床工学技術室

学会名／演題	氏名	年月／場所
第61回日本透析医学会学術集会 動画を使用したHHD患者教育	大橋 真弓	2016年6月 大阪府
第37回日本アフェレシス学会 2泊3日入院CARTパス運用の評価	重松 恭一	2016年11月 神奈川県

●臨床検査技術室

学会名／演題	氏名	年月／場所
第59回日本糖尿病学会年次学術集会 患者満足度を目指した糖尿病センターの構築について ～多職種参加型の糖尿病センター運営～	佐藤 由佳	2016年5月 京都府
第59回日本糖尿病学会年次学術集会 地域完結型糖尿病診療を目指した循環型連携パスの構築 ～試行から本稼働への現状と課題	後藤 慎一	2016年5月 京都府
第63回臨床検査医学会学術集会 外来患者に対する糖尿病診療の質の評価 ～糖尿病チーム医療は“質改善”に貢献できるか～	後藤 慎一	2016年9月 兵庫県
第55回日本臨床細胞学会総会秋期大会 子宮頸部小細胞癌の3例	齋藤 知央	2016年11月 大分県

●放射線技術室

学会名／演題	氏名	年月／場所
第25回 日本心血管インターベンション治療学会 緊急冠動脈造影施行例における非冠動脈疾患とDoor-to-balloon timesの検討	馬場 勇人	2016年7月 熊本県
第55回 全国自治体病院学会 救命救急センター内放射線撮影室設計における工夫	馬場 建造	2016年10月 富山県
第55回 全国自治体病院学会 X線写真撮影時の立位姿勢補助ベルトの考案	近藤 晋平	2016年10月 富山県

学会名／演題	氏名	年月／場所
第9回 中部放射線医療技術学術大会 治療RIS未導入施設における照射室での患者・セットアップ情報表示の検討	内田 守彦	2016年11月 三重県

●リハビリテーション技術室

学会名／演題	氏名	年月／場所
第51回日本理学療法学会 待機的胃切除術症例における手術後身体活動状況	山下 裕	2016年5月 北海道
第51回日本理学療法学会 頸髄損傷後に生じた無気肺に対するMI-Eの導入とチーム医療	北村 健人	2016年5月 北海道
第51回日本理学療法学会 肩関節可動域制限に対して解剖頸軸回旋を用いた関節可動域運動が有効であった症例	京地 拓也	2016年5月 北海道
第40回日本神経心理学会総会 漢字の失書を呈し側頭後頭葉に脳血流低下を認めた1例、なぜ消えるのか？	小川 七世	2016年9月 熊本県

●医療情報センター

学会名／演題	氏名	年月／場所
第55回全国自治体病院学会 春日井市民病院が取り組む多職種連携システムの構築① ～春日井さくらネットワークの導入と運用構築～	後藤 慎一	2016年10月 富山県
第55回全国自治体病院学会 多職種による医療の質向上への取り組み	沢田 俊朗	2016年10月 富山県

●医療連携室

学会名／演題	氏名	年月／場所
第55回全国自治体病院学会 春日井市民病院が取り組む多職種連携システムの構築① ～春日井さくらネットワーク実運用、看看連携～	田辺 圭子	2016年10月 富山県
第55回全国自治体病院学会 がん終末期患者の在宅退院調整後の転帰と今後の課題	幡野 由紀	2016年10月 富山県

●病院安全推進室

学会名／演題	氏名	年月／場所
第5回日本感染管理ネットワーク学会学術集会 急性期病院のリソースナースがおこなう地域の医療・介護との協働	伴 信義	2016年5月 大分県
第5回日本感染管理ネットワーク学会学術集会 個人携帯型手指消毒剤導入の効果	濱 ひろみ	2016年5月 大分県

●初期研修医

学会名／演題	氏名	年月／場所
第113回日本内科学会総会 17歳の冠攣縮性狭心症の一例	原田 貴仁	2016年4月 東京都
第44回日本救急医学会総会・学術集会 嘔吐を主訴に来院した胃軸捻転の一例	原田 貴仁	2016年11月 東京都

学会名／演題	氏名	年月／場所
日本救急医学会総会・学術集会 右下腹部痛を主訴に来院し精巣捻転症の診断が遅れた一例	李 昌史	2016年11月 東京都
第78回日本臨床外科学会総会 若年者の同時性多発大腸癌術後に脳腫瘍を発症した1例	篠田 幸樹	2016年11月 東京都

地方学会・研究会

●院長

学会名／演題	氏名	年月／場所
北海道透析研究会 維持透析患者の血圧管理	渡邊 有三	2016年8月 北海道
第12回日立CKD病診連携会議 CKD患者のトータルケア ―高齢者への対応―	渡邊 有三	2016年8月 茨城県
第8回東近江透析医療連携フォーラム 透析患者の終末期医療	渡邊 有三	2017年2月 滋賀県

●神経内科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第145回日本神経学会東海北陸地方会 主幹動脈の脳梗塞におけるt-PA治療：退院時m-RS値を高くする要因は何か	遠藤 利洋	2016年6月 名古屋市
第145回日本神経学会東海北陸地方会 SAPHO症候群を合併したパーキンソン病の1例	安藤 孝志	2016年6月 名古屋市
第146回日本神経学会東海北陸地方会 Basedow病を合併した純粋運動型CIDPの1例	鳥居 良太	2016年10月 石川県
第147回日本神経学会東海北陸地方会 MRIで内包後脚病変を呈した低血糖性四肢麻痺の1例	遠藤 利洋	2017年3月 名古屋市

●消化器科

学会名／演題	氏名	年月／場所
日本消化器学会東海支部第124回例会 術前CT検査で診断可能であった特発性大網捻転症の2例	隈井 大介	2016年6月 静岡県

●循環器科

学会名／演題	氏名	年月／場所
日本心血管インターベンション治療学会第35回東海北陸地方会 当院における血栓吸引施行症例の検討	竹内 陽平	2016年4月 名古屋市
日本心血管インターベンション治療学会第35回東海北陸地方会 高度石灰化病変におけるsynergyステント脱落の1例	高原 邦彦	2016年4月 名古屋市
日本循環器学会第147回東海地方会 通電中に最早興奮部位が変化し治療に難渋した潜在性WPW症候群の1例	大口 志央	2016年6月 静岡県

●小児科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第267回日本小児科学会東海地方会 交通事故を契機に診断された馬蹄腎・重複尿管の1例	竹内 陽平	2016年6月 名古屋市
第52回中部日本小児科学会 偶然発見された腭Solid-Pseudopapillary Neoplasmの一例	原田 貴仁	2016年8月 岐阜県
第14回小牧春日井小児科懇話会 尿路感染症でVURがあり手術適応となった10例の検討	尾池 直子	2016年8月 小牧市
第268回日本小児科学会東海地方会 ESBL産生大腸菌による尿路感染症の治療	隈井すみれ	2016年11月 豊明市
第19回東海小児内分泌セミナー 当院における低血糖の診断と治療	星野 伸	2016年11月 名古屋市
第269回日本小児科学会東海地方会 急性胃軸捻転症を来した小児の2例	成井 龍樹	2017年2月 名古屋市
第15回小牧春日井小児科懇話会 便から腸管出血性大腸菌を検出し得なかった溶血性尿毒症症候群の一例	竹内 陽平	2017年3月 小牧市
第15回小牧春日井小児科懇話会 Helicobacter pylori感染による鉄欠乏性貧血をきたした一例	奥村 俊彦	2017年3月 小牧市

●外科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第291回東海外科学会 直腸狭窄をきたし手術を施行した直腸子宮内膜症の1例	岡本紗和子	2016年4月 名古屋市
第291回東海外科学会 手術待機中に破裂したCOPD合併の高齢者肝細胞癌に対し腹腔鏡下切除を行った1例	宮村 径	2016年4月 名古屋市
第291回東海外科学会 術前に十二指腸GISTを疑ったが、術中の血圧変動により診断した無症候性副腎外Paragangliomaの1例	山本 泰資	2016年4月 名古屋市
第291回東海外科学会 ポリスチレンスルホン酸ナトリウム（SPS）による小腸粘膜障害に対し、小腸切除を施行した1例	山本 美里	2016年4月 名古屋市
第46回愛知臨床外科学会 大動脈の石灰化のため経カテーテル的動脈塞栓術が施行できず、緊急肝切除を施行した高齢者巨大肝癌破裂の1例	山本 美里	2016年7月 名古屋市
第46回愛知臨床外科学会 横行結腸腫瘍による腸重積が原因となった輸入脚症候群の1例	篠田 幸樹	2016年7月 名古屋市
第16回血管外科アカデミー 術後CMV腸炎を発症した腹部大動脈瘤破裂の1手術例	玉井 宏明	2016年9月 岐阜県
第13回日本乳癌学会中部地方会 抗HER2療法が著効したStage IV乳癌の1例	山本 美里	2016年9月 名古屋市
第13回日本乳癌学会中部地方会 乳房全摘術後12年に発症した同側異時性粘液癌の1例	山本 泰資	2016年9月 名古屋市
第292回東海外科学会 膵頭十二指腸切除術を行った超高齢者遠位胆管癌の1例 —当院の超高齢者に対する膵頭十二指腸切除の検討—	濱田 剛史	2016年10月 岐阜県

学会名／演題	氏名	年月／場所
第292回東海外科学会 腹部大動脈瘤破裂の術後にサイトメガロウイルス直腸炎を発症した1例	松浦 直樹	2016年10月 岐阜県
第292回東海外科学会 胆道出血で発症した膵・胆管合流異常に合併した胆嚢癌の1例	三竹 泰弘	2016年10月 岐阜県
第292回東海外科学会 重症急性膵炎治療中に大腸閉塞で発症した局所進行横行結腸癌の1手術例	山本 泰資	2016年10月 岐阜県
第47回愛知臨床外科学会 仙骨合併Hartmann手術にて切除した早期直腸癌術後局所再発の1例	有元 淳記	2017年2月 名古屋市
第47回愛知臨床外科学会 内科的治療により術前腎不全に陥った巨大胃GISTの1切除例	山本 美里	2017年2月 名古屋市

●整形外科

学会名／演題	氏名	年月／場所
第127回中部日本整形外科災害外科学会 Internal fixation for femoral neck fractures with Twins®	鈴木 浩之	2016年9月 長野県
第127回中部日本整形外科災害外科学会 関節手術用灌流液使用時の注意点 —正確な術中出血把握のため知っておくこと—	平出 隆将	2016年9月 長野県

●臨床工学技術室

学会名／演題	氏名	年月／場所
第20回 日本アフェレシス学会 中部地方会 PMX+Sepxiris併用療法においてカラム配列変更により昇圧効果に変化を認めた2症例	重松 恭一	2016年12月 名古屋市

●初期研修医

学会名／演題	氏名	年月／場所
第291回東海外科学会 直腸狭窄をきたし手術を施行した直腸子宮内膜症の1例	岡本紗和子	2016年4月 名古屋市
第46回愛知臨床外科学会 横行結腸腫瘍による腸重積が原因となった輸入脚症候群の1例	篠田 幸樹	2016年7月 名古屋市
第52回中部日本小児学会 偶然発見された膵Solid-Pseudopapillary Neoplasmの一例	原田 貴仁	2016年8月 岐阜県
第16回血管外科アカデミー 化膿性脊椎炎を併発した感染性右総大腿動脈瘤の1手術例	篠田 幸樹	2016年9月 岐阜県
第292回東海外科学会 膵頭十二指腸切除術を行った超高齢者遠位胆管癌の1例 —当院の超高齢者に対する膵頭十二指腸切除の検討—	濱田 剛史	2016年10月 岐阜県
第292回東海外科学会 腹部大動脈瘤破裂の術後にCMV直腸炎を発症した1例	松浦 直樹	2016年10月 岐阜県
第110回日本呼吸器学会東海地方学会 Cushing症候群を合併した小細胞肺癌の一例	伊東 友憲	2016年11月 名古屋市
第231回東海地方会（日本内科学会東海支部主催） 当院で経験した腸チフスの2例	原田 貴仁	2017年2月 三重県

学会名／演題	氏名	年月／場所
第231回東海地方会（日本内科学会東海支部主催） 局所麻酔下胸腔鏡にて診断に至った結核性胸膜炎の1例	三田 晃裕	2017年2月 三重県
第47回愛知臨床外科学会 消化管出血を来したVon Recklinghausen病に合併した十二指腸、空腸多発GISTの1切除例	李 昌史	2017年2月 名古屋市

講演等

●院長

学会名／演題	氏名	年月／場所
ミルセラ発売5周年記念講演会 腎性貧血治療 ―エリスロポエチン登場前から振り返って―	渡邊 有三	2016年8月 東京都
第688回鯉光会月例会 高齢化時代を迎えて変わる医療現場 ―自治体病院管理者の立場から―	渡邊 有三	2016年12月 名古屋市
中部大学Active Again Colledge 最近の医療事情	渡邊 有三	2016年12月 春日井市

●神経内科

学会名／演題	氏名	年月／場所
春日井市民病院 第3回院内公開講座 もの忘れと認知症のおはなし	寺尾 心一	2016年5月 春日井市
愛知県鍼灸マッサージ師会主催「公開健康講座」 もの忘れと認知症について	寺尾 心一	2016年6月 名古屋市
春日井市民病院 第4回院内公開講座 もの忘れと認知症のおはなし	寺尾 心一	2016年11月 春日井市
尾東地区放射線技師会 脳梗塞rt-PA治療の現状、春日井市民病院神経内科の取り組みについて	寺尾 心一	2017年2月 春日井市
尾張北部脳卒中地域連携パス会議 軽症脳梗塞患者におけるrt-PA治療の有効性	寺尾 心一	2017年3月 春日井市
愛知医科大学加齢医科学研究所セミナー 臨床神経病理検討会 39歳より歩行障害、左下肢のつっぱり感が出現し脊柱管狭窄症と診断され椎弓切除術をうけた44歳男性	遠藤 利洋	2017年3月 長久手市

●小児科

講演会名／演題	氏名	年月／場所
子どもの家指導員研修 食物アレルギーとは？ ―アレルギーのしくみと治療法―	河邊太加志	2016年6月 春日井市
小児救急に関する研修会 見逃してはいけない子どもの症状・病気	河邊太加志	2017年3月 春日井市

●外科

学会名／演題	氏名	年月／場所
日本在宅医学会 第1回地域フォーラム 人生の岐路を支える意思決定支援① シンポジウム	會津 恵司	2016年4月 福井県

学会名／演題	氏名	年月／場所
第2回在宅医療導入研修会 アドバンス・ケア・プランニングの導入について	會津 恵司	2016年8月 春日井市
平成28年度人生の最終段階についてのアドバンス・ケア・プランニングを推進する人材育成のための研修会 ランチョンセミナー 人生の最終段階における医療体制整備 春日井市民病院の取り組み	會津 恵司	2016年10月 名古屋市

●薬剤部

学会名／演題	氏名	年月／場所
犬山糖尿病スタッフセミナー 糖尿病領域における薬薬連携	田中 伸明	2016年7月 犬山市

●病院安全推進室

学会名／演題	氏名	年月／場所
第79回山陰インфекションコントロールセミナー 感染症とフィジカルアセスメント	伴 信義	2016年10月 鳥取県

●単体操教室 ミニ講話（春日井市総合保健医療センターにて）

演題	氏名	年月
膝のおはなし	整形外科 村瀬 熱紀	2016年9月
		2016年10月
腰のおはなし	整形外科 村瀬 熱紀	2016年10月
		2016年11月
肩のおはなし	整形外科 村瀬 熱紀	2016年11月
		2016年12月
インフルエンザ予防のおはなし	整形外科 村瀬 熱紀	2016年12月
		2017年1月
寒い季節の怖いこと	循環器科 河村 吉宏	2017年1月
胸が痛い		
動悸		
適度な運動の適度って？		
塩はなぜ悪い？	循環器科 河村 吉宏	2017年2月
日本人は長寿ですか？		
心疾患の検査について		
飲み込む力のチェック方法	看護局 松永 美保	2017年3月
むせない嚥下体操		

その他

●院長

演題	氏名	年月
CBCラジオ「朝ポン」 血糖値とは	渡邊 有三	2016年7月

演 題	氏 名	年 月
CBCラジオ「朝ポン」 アルコール代謝と肝障害	渡邊 有三	2017年 1 月

●がん相談支援センター・エンドオブライフケアチーム

演 題	氏 名	年 月
NHK総合テレビ「あさいチ」 延命治療はイヤ！ そのとき家族は？		2016年 6 月

地域研修会・交流会等

〈地域研修会・交流会〉

研修会名／演題	講 師	年月／場所
第27回 地域連携研修会 食べることをみんなで考えよう。 —誤嚥性肺炎の予防—	医療連携室	2016年 8 月 春日井市総合保健 医療センター
第28回 地域連携研修会 食べることをみんなで考えよう。 —誤嚥性肺炎患者の地域連携—	医療連携室	2017年 2 月 春日井市総合保健 医療センター
春日井市地域糖尿病研修会 糖尿病患者の在宅支援	看護局 鈴木 香里 他	2016年 7 月 春日井市総合保健 医療センター
第2回 薬薬連携コンソシアム研修会 「手術前中止薬における新しい病薬連携の取り組み」 「新しい副作用アプローチで1-UP薬剤師になろう！」	薬剤部 秋田 一幸 水草 博希	2016年 8 月 春日井市総合保健 医療センター
第3回 薬薬連携コンソシアム研修会 「薬剤師1UPセミナー トラドマールの安全対策について」	薬剤部 家崎光太郎	2016年10月 春日井市総合保健 医療センター
第4回 薬薬連携コンソシアム研修会 「薬剤師1UPセミナー ラミクタールの安全対策について」	薬剤部 土屋絵梨果	2017年 1 月 春日井市総合保健 医療センター
第5回 薬薬連携コンソシアム研修会 「薬剤師1UPセミナー フォシーガの安全対策について」	薬剤部 加藤麻理乃	2017年 3 月 春日井市総合保健 医療センター
NPO法人ゆうゆう主催 —「薬はこう使え」その1	薬剤部 坂田 洋	2017年 1 月 グリーンパレス 春日井
NPO法人ゆうゆう主催 —「薬はこう使え」その2	薬剤部 坂田 洋	

▼がんオープンカンファレンス

テーマ	講 師	年 月
腫瘍随伴症候群	神経内科 鳥居 良太 看護局 水野 紗知	2016年 4 月

テーマ	講師	年月
骨転移治療に伴う顎骨壊死・非定型大腿骨骨折	薬剤部 鈴木 大吾 歯科口腔外科 丹下 和久 整形外科 福島 裕晃	2016年 5月
陽子線治療の現状と展望	名古屋市立西部医療センター 荻野 浩平	2016年 6月
膵臓がんについて	消化器科 高田 博樹 近藤 朋子	2016年 7月
術前オリオリ2.0	薬剤部 秋田 一幸 コンシェルジュ 佐々木恭子 看護局 吉原 幸	2016年 8月
第50回特別企画 研修医による学術集会 「Lambert-Eaton 筋無力症候群を合併した小細胞癌の一例」 「二回の腹腔内再発巣切除と療法により5年以上生存中の膵体部癌の一例」 「十二指腸転移を来した乳癌の一例」 「周術期口腔機能管理の現状」	研修医 濱田 剛 松浦 直樹 河村 逸外 西出 和貴	2016年 9月
「乳がん」 - 病理診断を読み解く -	病理部 立山 尚 放射線技術室 大水 裕子	2016年10月
肺がん	呼吸器科 岩木 舞	2016年11月
遺伝性乳がん卵巣がん症候群について知る ～その拾い上げからリスク低減手術まで～	名古屋市立大学病院 産婦人科学教室助教 西川隆太郎 認定遺伝カウンセラー 大瀬戸久美子	2016年12月
皮膚科領域での悪性腫瘍	海南病院 皮膚科代表部長 渡辺 正一	2017年 1月
甲状腺がん	外科 會津 恵司 内科 岡田由紀子	2017年 2月
腹腔鏡下手術（外科）	外科 山口 竜三 有元 淳記	2017年 3月

〈院内研修会〉

研修会名／演題	講師	年月
平成28年度 安全管理のための職員研修 知っておこう！ 安全ルール ～病院機能評価に向けて～	病院安全推進室	2016年 7月
平成28年度 安全管理のための職員研修 「職員間のコミュニケーション」について —エラー発生を防ぐ的確な情報伝達の方法—	SOMPOリスクマネジメント 星野 智史	2017年 1月
平成28年度 安全管理のための職員研修 ヒヤリ・ハット劇場 ～コミュニケーションについて考えよう～	病院安全推進室	2017年 3月
平成28年度 医療関連感染に関わる職員研修 「輸入感染症の最前線について（検疫官のお仕事）」 検疫所と感染症指定医療機関との連携 最近の検疫感染症の話題	厚生労働省 中部空港検疫所支所長 名古屋検疫所検疫衛生課長 安藤 正郎	2016年 7月
平成28年度 医療関連感染に関わる職員研修 「耐性菌について」	名古屋大学大学院 臨床感染統御学分野 教授 八木 哲也	2017年 1月
平成28年度 QI大会 当院が参加する医療の質評価事業の結果報告（平成27年度） 今後の取組みと改善事例報告	医療情報センター 後藤 慎一 沢田 俊朗 臨床検査技術室 渡邊 弥生 放射線技術室 小西 智恵 皮膚排泄ケア認定看護師 横井さつき	2016年11月
輸血研修会 「H28年度院内輸血マニュアル改訂点」 「アルブミン製剤の適正使用について」	臨床検査技術室 神野 洋彰 日本輸血製剤機構 松下 達哉	2016年11月
診療報酬研修会 厚生局の特定共同指導に備えて 傾向と対策	医事課 ソラスト	2016年12月
第18回クリニカルパス大会 当院のクリニカルパスの現状 「クリニカルパスから病院を変える」 —船田流ワクワク大作戦！！—	医療情報センター 沢田 俊朗 名古屋大学医学部附属病院 メディカルITセンター 助教 船田 千秋	2017年 1月
多職種によるDNAR	EOLケアチーム倫理委員会	2016年 8月
認知症研修 「もの忘れ」と「認知症」	神経内科 寺尾 心一	2017年 1月
診療報酬研修会 保険診療の基本的事項について	医事課 ソラスト	2017年 3月

▼がんサーボード

テーマ	講師	年月
イクスタンジが著効した前立腺がん肺転移の1例	泌尿器科 春日井 震	2016年 4月

テーマ	講師	年月
脳移転術後、副腎、肝移転を伴う肺扁平がんの1例	呼吸器科 岩田 晋	2016年6月
抗HER2療法が奏功している若年高度進行乳がんの1例 直腸がん末期のチームサポート	外科 山本 美里 會津 恵司	2016年7月
大腸癌外来化学療法（BV+FOLFOX）中に呼吸不全を来 たし気管内挿管、ICU管理を要した症例	外科 渡邊 真哉	2016年9月
早期に再発をきたした若年者の舌癌の1例	歯科口腔外科 丹下 和久	2016年12月
術後寛解の後7年を経て再発した血管肉腫の1例	皮膚科 古橋 卓也	2017年2月
VT発作を繰り返した進行性乳癌の1例 —化学療法中の心機能評価—	外科 山本 美里	2017年3月

▼看護実践報告会

テーマ	講師	年月
第一回 看護をつなぐ ～外来から病棟へ、病棟から地域へ～		
術前からつなぐ周術期看護 ～術前オリオリの実践	西4階病棟 吉原 幸	2016年7月
周術期情報・看護記録を活用した看護記録の検討 —多職種との連携とつなぐ看護をめざして—	中央手術室 荒金 英治	
病院と行政で取り組むハイリスク妊産婦の支援	東2階病棟・西2階病棟 鈴木 雅美	
脳卒中後の自発性低下に対する嗜好品を用いたアプローチ	東5階病棟 清原 達観	
春日井さくらネットワークでつなぐ看護	ナースサポート室 横井さつき	
『病棟・外来・地域』をつなぐ	西7階病棟 井上 静香	2016年7月
がん終末期患者の退院調整の振り返り ～思いの本質を捉え、在宅へつなげることの重要性～	医療連携室 柳瀬 宏佳	
第二回 看護をつなぐ ～外来から病棟へ、病棟から地域へ～		
CLN・暫定CLNで取り組む退院支援 ～退院に向け患者が望む・望ましい環境への支援～	西6階病棟 大野 知子	2017年1月
外来継続看護 ～慢性腎臓病の患者とのかかわりを通して～	外来 二本柳貴美子	
こどもの未来のために ～I型糖尿病患児の看護～	西2階病棟 米澤 景子	
退院前訪問指導の効果と退院調整看護師の役割	医療連携室 池戸 貴子	
放射線治療室における看護の役割 —現状と今後の課題	放治・化学療法センター 木戸協栄子	
介入方法の違いは知識の定着に影響するか ～ファシリテーションとインストラクションを比較して～	救急病棟 河合 豊	

テーマ	講師	年月
シャボンラッピングを通して患者の生活意欲が変わった事例	東4階病棟 伊達由美子	2017年1月
●特別発表 急性期病院での認知症終末期の栄養に関する意思決定 支援の促進因子と阻害因子の検討 ～看護カンファレンスの分析より～	国立長寿研究センター 老人看護専門看護師 高道 香織	

研修医CPC

剖検 番号	テーマ	主治医	研修医(臨床)	研修医(病理)	指導病理医	年月
606	下血を主訴に来院し、汎血球減少を呈した高齢男性の1例	隈井 大介 (消化器科)	宇塚 千紗	岡本紗和子	吉田めぐみ	2016年5月
609	透析患者の肺炎で入院した1例	岩木 舞 (呼吸器科)	河村 逸外	篠田 幸樹	立山 尚	2016年7月
610	胃粘膜下腫瘍に対し、噴門側胃切除、脾・体尾部切除、横行結腸部分切除を施行し、術後早期に急変した一例	宮村 径 (外科)	竹内 陽平	藤本 裕基	立山 尚	2016年9月
611	大動脈解離で入院し、複雑な経過をたどって死亡した一例	大口 志央 (循環器科)	濱田 剛史	脇田 梨恵	吉田めぐみ	2016年11月
612	間質性肺炎合併小細胞癌の一例	岩木 舞 (呼吸器科)	横井 順平	三田 晃裕	立山 尚	2017年1月
613	～目撃なし CPCで救急搬送され、剖検した一例～	永原 靖子 (内科)	李 昌史	小川 才諒	吉田めぐみ	2017年3月

剖検報告

平成28年度病理解剖報告

剖検番号	年齢	性別	科	臨床診断	病理解剖学的診断
611	80	女	循環器内科	急性大動脈解離 敗血症	1.大動脈解離 (Stanford B型、DeBakey IIIb型、偽腔開存型) 2.腸管壊死 (小腸・大腸) 3.気管支肺炎及び真菌性肺炎 (左: 310、右: 440g) 4.腔水症 (左150cc、右200cc 漿液性) 5.敗血症 6.播種性血管内凝固症候群 7.粥状動脈硬化症 (高度) 9.肝うっ血 9.良性腎硬化症 (左85g、右95g) 10.心肥大 (軽度) 11.びらん性胃炎 12.下腹部正中手術瘢痕 (卵巣腫瘍)
612	87	男	呼吸器内科	肺小細胞癌 間質性肺炎	1.左肺混合型小細胞癌 (小細胞癌および腺扁平上皮癌): 転移あり (右肺、肝臓、脾臓、骨髄、前立腺、横隔膜、大脳、中脳、小脳、下垂体、気管周囲リンパ節、大動脈周囲リンパ節) 2.胃癌、大腸癌、膀胱癌内視鏡的治療後状態、再発なし 3.間質性肺炎 (石綿肺) 4.心褐色萎縮 5.大動脈粥状硬化症 6.良性腎硬化症 7.腺腫様甲状腺腫 8.左副腎骨髄脂肪腫 9.胸膜プラーク
613	73	男	内科	糖尿病 心筋梗塞疑い	1.間質性肺炎急性増悪、肺高血圧症 2.線維性胸膜炎 3.高度動脈粥状硬化症 4.虚血性腸炎 5.肝うっ血 6.心筋虚血性小線維化巣 7.良性腎硬化症
614	74	女	神経内科	偽膜性腸炎 レヴィー小体型認知症	1.レヴィー小体型認知症 2.高度るい瘦 (全身性脂肪細胞の膠様変性) 3.腸管囊腫様気腫症および出血 4.誤嚥性肺炎、器質性肺炎、微小脳膜細胞様結節 5.虚血性腸炎 6.心筋虚血性小線維化巣 7.腔水症 (腹水300ml、胸水左100ml、右100ml、心嚢水30ml) 8.慢性脾炎 9.食道びらん 10.慢性胆嚢炎、コレステロールポリープ 11.肝臓海綿状血管腫 12.骨髄低形成 13.腺腫様甲状腺腫 14.慢性膀胱炎 15.良性腎硬化症 16.舌乳頭腫 17.胃壊造設状態
615	79	男	内科	大肺葉性肺炎 敗血症	1.大腸癌 (上行結腸: 高分化型管状腺癌)、転移なし 2.気管支肺炎、器質性肺炎、間質性肺炎 (左右下葉: 395g、570g) 3.急性尿管壊死、腎嚢胞 (85g、90g) 4.軽度粥状硬化症 5.高度るい瘦 (150cm、26.4kg) 6.胆嚢結石
616	67	男	神経内科	誤嚥性肺炎 パーキンソン病	1.大葉性肺炎、器質性肺炎、うっ血水腫 2.急性心筋梗塞、心肥大 (415g) 3.パーキンソン病 4.るい瘦 (全身の脂肪組織の膠様変性) 5.腔水症 (胸水左700ml、右500ml、心嚢水70ml) 6.肝うっ血 7.良性腎硬化症、左腎嚢胞 8.上行結腸憩室 9.大動脈粥状硬化症、軽度 10.慢性膀胱炎 11.胃壊造設状態
617	41	男	神経内科	筋萎縮性側索硬化症	1.筋萎縮性側索硬化症 2.両側気管支肺炎 (715g; 470g) 3.神経原性筋萎縮 (腸腰筋) 4.骨髄血球貪食像 5.びらん性胃炎 6.脂肪肝 (1370g) 7.慢性甲状腺炎 (34.5g) 8.大腸憩室
618	89	男	内科	低血糖 肺炎	1.肺出血を伴う高度の気管支肺炎、誤嚥性肺炎 2.心アミロイドーシス、心肥大 (385g) 3.急性脾炎、敗血症 4.肝うっ血 5.腔水症 (胸水左600ml、右50ml) 6.胃切除後状態 (B-I法再建、吻合部神経腫) 7.良性腎硬化症 8.大動脈粥状硬化症、軽度 9.精巣萎縮 10. 上行結腸脂肪腫
619	83	女	内科	MOF DIC 慢性腎不全 慢性心不全	1.急性心筋梗塞 (左室側壁-後壁)、心肥大 (450g) 2.慢性肝うっ血、虚血性肝障害 (ショック肝) 3.肺うっ血水腫、気管支肺炎、器質性肺炎 (310g; 330g) 4.腔水症 胸水 (300cc; 150cc 漿液性) 5.虚血性腸炎 6.左腎萎縮、良性腎硬化症 (36g; 74.5g) 7.高度粥状硬化症 8. 骨髄過形成 9.胆嚢摘出後状態 10.結腸メラノーシス
620	73	男	内科	急性心筋梗塞 心室細動	1.急性および陳旧性心筋梗塞、心肥大 (395g) 2.粥状硬化症、大動脈、冠動脈 3.小葉中心性肺気腫、慢性気管支炎、うっ血水腫、右下葉肺出血 4.後腹膜および縦隔内出血 5.逆流性食道炎 6.胃びらん 7.肝うっ血 8.結腸管状腺腫 9.左腎乳頭状腺腫 10.骨髄過形成 11.良性前立腺肥大
621	80	男	神経内科	筋萎縮性側索硬化症 肺炎 敗血症	1.大腸癌 (横行結腸、高分化型腺癌、pT1b、転移なし) 2.前立腺癌 (高分化型腺癌、ラテント癌、転移なし) 3.筋萎縮性側索硬化症 4.器質性肺炎、間質性肺炎、軽度塵肺症 5.心肥大 (415g)、虚血性線維化巣 6.急性および慢性脾炎 7.急性脾炎 (敗血症疑い) 8.肝うっ血、海綿状血管腫 9.良性腎硬化症 10.精巣萎縮 11.胃切除後状態 12.気管切開後状態
622	75	女	外科	出血性ショック 胃癌術後状態	1.胃癌術後状態 (B-II法再建) (por1、pT3、pN2、pStage IIIA、腫瘍の残存なし) 2.急性および慢性脾炎 3.虚血性肝障害 (ショック肝)、肝嚢胞 (1010g) 4.急性尿管壊死、良性腎硬化症、腎嚢胞 (115g; 110g) 5.両肺うっ血水腫+気管支肺炎 (290g; 470g) 6.播種性血管内凝固症候群: 全身皮下出血、腹腔・後腹膜腔・縦隔内血腫 7.腔水症: 胸水 (50ml; 150ml; 漿液性) 8.消化管虚血性変化 9.脾梗塞 (70g) 10.心肥大 (345g) 11.骨髄過形成 (顆粒球優位) 12.腺腫様甲状腺腫 13.漿液性嚢胞 (左右卵巣)
623	71	男	呼吸器内科	肺小細胞癌 肺結核	1.左肺小細胞癌、転移あり (左肺、横隔膜、心嚢、縦隔、気管支周囲リンパ節、大動脈周囲リンパ節、骨髄) 2.間質性肺炎 (局所的) 及び炭粉沈着 3.心肥大 (340g、薬剤性心筋症の疑い) 4.急性および慢性脾炎 5.肝うっ血 6.良性腎硬化症、急性尿管壊死 7.性胆嚢炎 8.行結腸管状腺腫 9.精巣萎縮 10.横隔膜膿瘍
624	86	男	整形外科	右大腿骨頸部骨折	1.前立腺癌 (ラテント癌、高分化型腺癌)、転移なし 2.本態性血小板血症 3.多発性肺動脈血栓塞栓症、珪肺症、結核症、線維性胸膜炎 4.後腹膜出血、血性腹水 (800ml) 5.心肥大 (420g)、虚血性小線維化巣 6.大動脈粥状硬化症 7.左腎摘出後状態 (結核症)、右腎多発性嚢胞、腎硬化症 8.十二指腸憩室 9.胃潰瘍瘢痕 10.空腸リンパ管腫 11.慢性膀胱炎 12.リンパ球性甲状腺炎 13.右大腿骨頸部骨折術後状態

病 院 概 要

I 施設概要

1 沿革

昭和21年	6月	鷹来診療所開設
	7月	篠木診療所開設
23年	3月	鳥居松診療所開設 味美診療所開設
	10月	国民健康保険法の改正により春日井市国民健康保険公営となる
25年	9月	春日井市立市民病院設置条例制定、10月1日施行
26年	4月	第1病棟（42床）完成
	6月	本館完成
	8月18日	春日井市民病院として開院 診療科：内科、外科 病床数：一般病床 42床
	12月	産婦人科新設
27年	3月	医師住宅（2戸）完成
	10月	第2病棟（55床）完成 病床数：一般病床 97床となる
	11月	篠木、鳥居松診療所廃止
30年	3月	春日井市立春日井病院条例制定 春日井病院（伝染病棟）完成
	5月	春日井市立春日井病院（伝染病棟）開院（市民病院に併設） 病床数：一般病床 97床、伝染病床 30床 計 127床となる
32年	9月	桃山診療所開設
33年	1月	高蔵寺、坂下診療所開設
	3月	耳鼻いんこう科新設
	4月	病棟（50床）増築完成 病床数：一般病床 147床、伝染病床 30床 計 177床となる
34年	7月	国民健康保険診療施設春日井市民病院に改める
	8月	看護婦宿舎完成（木造2階建）
	9月	伊勢湾台風来襲
35年	1月	国民健康保険診療施設春日井市民病院設置条例制定
36年	3月	病院改築第1期工事（第1病棟）着工
37年	3月	病院改築第1期工事（第1病棟 116床）完成 （鉄筋コンクリート造地下1階地上3階、延床3,968.66㎡） 病床数：一般病床217床、伝染病床 30床 計 247床となる
	10月	病院改築第2期工事（診療管理棟）着工
38年	1月	医師住宅（2戸）完成
	4月	病院改築第2期工事（診療管理棟）完成 （鉄筋コンクリート造地下1階地上2階、延床2,030㎡）
	8月	小児科、眼科、整形外科新設
39年	4月	地方公営企業法の財務規定一部適用
	5月	看護婦宿舎完成（鉄筋コンクリート造4階建 50人収容）
	7月	上八田医師住宅完成（鉄筋コンクリート造2階建 4戸）
	8月	救急病院指定

昭和39年	9月	旧看護婦宿舎を病床（43床）に改造 病院事業再建整備計画を議決
	12月	病床数変更 病床数：一般病床 159床、結核病床 58床、伝染病床 30床 計 247床となる
40年	11月	鷹来診療所改築完成（木造平屋建）
41年	4月	整形外科休診
	8月	病院機構改革 医務局、事務局の2局制となる
	12月	病院事業財政再建計画議決
42年	1月	総合病院の名称使用承認
	3月	国保診療施設から独立、春日井市立春日井市民病院として発足
44年	8月	六軒屋医師住宅完成（4戸）
	10月	X線断層撮影装置整備
45年	1月	脳神経外科新設
	10月	第2病棟増築第1期工事着工
46年	3月	第2病棟増築第1期工事完成 （鉄筋コンクリート造地下1階地上2階、延床1,763.10㎡） 病床数：一般病床 284床、結核病床 44床、伝染病床 30床 計 358床となる
	8月	第2病棟増築第2期工事着工
47年	2月	第2病棟増築第2期工事完成 （鉄筋コンクリート造3～5階建、延床2,624.85㎡） 六軒屋医師住宅完成（2戸） 託児所開設
	7月	整形外科再開
48年	1月	鷹来診療所廃止 耳鼻いんこう科休診
50年	6月	耳鼻いんこう科再開
51年	6月	伝染病棟取り壊し工事着手
	8月	伝染病棟敷地整地後、看護婦宿舎建設工事着工
	12月	中央診療管理棟建設工事着工
52年	3月	看護婦宿舎建設工事完成 （鉄筋コンクリート造5階建 100人収容）
	9月	リハビリ棟（水治療室）完成
	12月	旧看護婦宿舎取り壊し工事着工
53年	1月	中央診療管理棟建設工事完成 （鉄筋コンクリート造地下1階地上3階、延床3,928.83㎡）
	3月	伝染病棟（10床）改築工事完成
	4月	市健康管理センター、休日急病診療所開設
	9月	診療棟及び第1病棟改造工事完成 病床数：一般病床 288床、結核病床 44床、伝染病床 10床 計 342床となる
54年	4月	消化器科新設

昭和54年 12月	結核病床を一般病床に変更 病床数：一般病床 332床、伝染病床 10床 計 342床となる
55年 12月	病院第2次整備事業着工
56年 9月	A病棟（第1病棟）4、5階増築工事完成 （鉄筋コンクリート造 延床1,766.59㎡） リハビリ棟（機能回復訓練室）完成（延床397.55㎡）
57年 3月	A病棟地階～3階改造工事完成
5月	病床数：一般病床 449床、伝染病床 10床 計 459床となる
8月	新中央診療管理棟増築工事完成 （鉄筋コンクリート造地下1階地上5階、延床1,741.10㎡） 中央診療管理棟4階増築工事完成（延床191.91㎡） 厨房増築工事完成（延床226.81㎡） 全身用X線コンピュータ断層診断装置（CT）整備
9月	人工透析部門開設
59年 3月	カルテ倉庫兼小動物実験棟完成（延床170.42㎡）
62年 8月	病院第3次整備事業完成 外来部門改造 最新医療機器の導入（ライナック、血管連続撮影装置、CT）
10月	循環器科、神経内科、泌尿器科、皮膚科、放射線科新設
63年 4月	病院機構改革 医務局、看護局、事務局の3局制となる
11月	病床数：一般病床 484床、伝染病床 10床 計 494床となる
平成元年 3月	病床数：一般病床 500床、伝染病床 10床 計 510床となる
3年 4月	呼吸器科、理学診療科新設 磁気共鳴断層撮影装置（MRI）整備
4年 1月	病診連携室を院内に開設
4月	病診連携事業開始
5月	事務局に病院建設準備室を新設
6月	新市民病院建設基本構想策定
5年 2月	予約診療開始
4月	病院建設準備室を病院建設室に改称 伝染病棟を8床に変更 病床数：一般病床 500床、伝染病床 8床 計 508床となる
8月	外来診療土曜日休診
6年 2月	新市民病院基本設計委託
7年 5月	新市民病院実施設計委託
7月	新市民病院看護職員宿舎工事着手
8年 2月	新市民病院調整池第1期工事着手
6月	形成外科新設 新市民病院本館建設工事着手
10月	新市民病院看護職員宿舎入居開始
9年 1月	理学診療科をリハビリテーション科、泌尿器科を泌尿器科に科名変更
8月	新春日井市民病院外構工事着手
10月	麻酔科新設
10年 4月	新市民病院研修医宿舎完成

平成10年 11月	新市民病院開院 診療科：22科（精神科、呼吸器外科、心臓血管外科、歯科口腔外科新設） 病床数：一般病床 550床（開放型病床50床含む）
11年 4月	感染症病床指定 病床数：一般病床 550床、感染症病床 6床 計 556床となる
13年 3月	臨床研修病院指定
12月	日本病院機能評価認定
15年 4月	女性専用外来開設
7月	日帰り手術センター開設 医療安全管理室開設 医療相談開始
16年 7月	動脈硬化外来開設
17年 4月	新生児聴覚検査開始 医療連携室開設
18年 4月	セカンドオピニオン外来開設
19年 3月	化学療法センター開設
4月	インターネット検査予約開始
20年 7月	静脈瘤外来開設
10月	糖尿病指導外来開設
21年 1月	敷地内全面禁煙
3月	春日井市民病院中期経営計画（公立病院改革プラン）策定
7月	糖尿病センター開設
22年 3月	災害拠点病院（地域災害医療センター）指定 中部大学との相互協力に関する覚書締結
6月	地域連携ステーション開設
9月	ブラッドアクセスセンター開設
23年 5月	電子カルテシステム導入 検査・入院案内コーナー設置
24年 3月	愛知県がん診療拠点病院 指定 災害派遣医療チーム（DMAT）発足
4月	一般病床のうち開放型病床を8床に変更
9月	地域医療支援病院承認
10月	（仮称）春日井市総合保健センター整備工事着工
25年 2月	看護相談外来開設
3月	春日井市民病院中期経営計画（公立病院改革プラン）改定
10月	もの忘れ外来開設 院内助産開設
26年 1月	神経内科、脳神経外科を総合保健医療センター棟に移設
2月	救急部門を総合保健医療センター棟に移設 救急病床開設 病床数：一般病床 556床（救急病床6床含む）、感染症病床 6床 計 562床となる
3月	放射線がん治療装置（トモセラピーHDA）導入
4月	脳卒中センター開設

平成26年	4月	内視鏡センター開設
	6月	春日井市総合保健医療センター開所 糖尿病センター移設使用開始 血管内治療センター移設使用開始
	12月	採血室移設 心臓血管撮影装置更新
27年	2月	検査・入院案内コーナー移設 地域連携ステーション移設
	3月	第2次春日井市民病院中期経営計画策定
	4月	研修管理室開設
	6月	売店をコンビニエンスストアに改修
	9月	エンドオブライフ（EOL）ケア開始
	10月	救命救急センター指定
	12月	救命救急センター開設
28年	1月	院内保育所増築
	6月	コーヒーショップ開店
29年	3月	第2次春日井市民病院中期経営計画改定
	4月	一般病床を4床減床 病床数：一般病床 552床（救急病床6床含む）、感染症病床6床 計558床となる 病理診断科、救急科を新設 呼吸器科を呼吸器内科、消化器科を消化器内科、循環器科を循環器内科、耳鼻いんこう科を耳鼻咽喉科に名称変更 内科を内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、心臓血管外科を血管外科、心臓外科、放射線科を放射線診断科、放射線治療科に再編

2 歴代院長等（平成29年4月1日現在）

(1) 歴代院長

竹 中 元 彦	昭26. 4. 1～昭29. 2. 16
後 藤 力	29. 3. 4～ 30. 12. 27
鈴 木 茂	30. 12. 28～ 57. 6. 30
大 村 豊	57. 7. 1～平2. 3. 31
三 輪 新	平2. 4. 1～ 12. 3. 31
矢 野 孝	12. 4. 1～ 21. 3. 31
渡 邊 有 三	21. 4. 1～

(2) 歴代名誉院長

鈴 木 茂	昭57. 7. 1～平2. 3. 31
大 村 豊	平2. 4. 1～ 4. 3. 31
三 輪 新	12. 4. 1～ 21. 3. 31
矢 野 孝	21. 4. 1～ 24. 3. 31

(3) 歴代副院長

梶 田 武 夫	昭26. 6. 1～昭30. 3. 1
林 武 久	30. 3. 7～ 32. 6. 30
飯 田 稔	33. 1. 1～ 45. 5. 1
中 村 金 平	40. 8. 6～ 43. 7. 1
福 井 和 典	43. 9. 1～ 49. 3. 31
船 越 宏 恍	45. 3. 16～ 63. 12. 31
大 村 豊	52. 4. 1～ 57. 6. 30
三 輪 新	平2. 3. 1～平2. 3. 31
大 橋 大 造	2. 3. 1～ 7. 3. 31
矢 野 孝	7. 1. 1～ 12. 3. 31
渡 邊 有 三	12. 4. 1～ 21. 3. 31
金 井 道 夫	14. 4. 1～ 27. 3. 31
伊 藤 和 幸	15. 4. 1～ 24. 3. 31
種 田 陽 一	24. 4. 1～ 26. 3. 31
平 山 幹 生	24. 4. 1～ 27. 3. 31
松 本 修 一	26. 4. 1～ 28. 3. 31
佐々木 洋 光	26. 4. 1～
山 口 竜 三	27. 4. 1～
成 瀬 友 彦	28. 4. 1～

(4) 歴代事務局長

林 稔	昭25. 12. 1～昭29. 2. 1
伊 藤 六 郎	29. 2. 1～ 29. 5. 10
梶 田 和 雄	29. 5. 10～ 30. 6. 12
山 崎 成 穩	30. 6. 13～ 30. 10. 10
伊 藤 義 一	30. 10. 10～ 36. 4. 8

小川幸夫	昭36. 4. 8～昭42. 6. 30
長江不知男	42. 7. 1～ 50. 6. 30
永草宗司	50. 7. 1～ 54. 3. 31
三上坦	54. 4. 1～ 58. 3. 31
中山茂	58. 4. 1～ 62. 3. 31
荒川昭	62. 4. 1～平1. 3. 31
三上坦	平1. 4. 1～ 5. 3. 31
足立栄一	5. 4. 1～ 7. 3. 31
長江孝雄	7. 4. 1～ 7. 7. 31
長谷川典明	7. 8. 1～ 9. 3. 31
稲田嘉道	9. 4. 1～ 12. 3. 31
岡田滋	12. 4. 1～ 17. 3. 31
森川利博	17. 4. 1～ 19. 3. 31
梶田博	19. 4. 1～ 21. 3. 31
森典嗣	21. 4. 1～ 23. 3. 31
瀧本広男	23. 4. 1～ 27. 3. 31
大塚淳弘	27. 4. 1～ 29. 3. 31
坂井勝己	29. 4. 1～

(5) 歴代看護局長

榎本まさ子	昭26. 8. 1～昭48. 8. 30 (看護婦長)
榎本まさ子	48. 7. 1～ 56. 3. 31 (総看護婦長)
小林静子	56. 4. 1～平3. 3. 31 (総看護婦長)
中山ルミ子	平3. 4. 1～ 7. 3. 31 (看護部長)
岩田恒子	7. 4. 1～ 12. 3. 31 (看護部長)
林静子	12. 4. 1～ 19. 3. 31 (看護部長)
蔭山幸枝	19. 4. 1～ 24. 3. 31 (看護部長)
鈴江智恵	24. 4. 1～ 29. 3. 31 (看護部長)
上村睦美	29. 4. 1～

3 施設（平成29年4月1日現在）

(1) 所在地 愛知県春日井市鷹来町1丁目1番地1

(2) 施設名 春日井市民病院

(3) 開設者 春日井市長 伊藤 太

(4) 管理者 院長 渡邊 有三

(5) 病床数 一般病床 552床（うち救急部病床 6床）
感染症病床 6床 計 558床

(6) 診療科目 28科
内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、メンタルヘルス科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科

(7) 構造規模 敷地面積 140,200㎡

構 造 市民病院本棟
鉄骨鉄筋コンクリート造
病 棟 地上7階・地下1階
診療棟 地上3階・地下1階
総合保健医療センター棟
鉄骨造
地上4階

延べ面積 47,059㎡
うち市民病院本棟
45,672㎡
うち総合保健医療センター棟
1,387㎡

駐 車 場 1,100台、無料20台

その他の付属施設

エネルギーセンター、研修医宿舎、看護職員宿舎、保育所

4 施設基準等（平成29年4月1日現在）

(1) 入院基本料に関する事項

- ・一般病棟入院基本料（7対1）

(2) 入院時食事療養費に関する事項

- ・入院時食事療養（Ⅰ）

(3) 基本診療料に関する事項

- ・地域歯科診療支援病院歯科初診料
- ・歯科診療特別対応連携加算
- ・超急性期脳卒中加算
- ・医師事務作業補助体制加算2（40対1）
- ・看護職員夜間12対1配置加算1
- ・重症者等療養環境特別加算
- ・栄養サポートチーム加算
- ・感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算有
- ・患者サポート体制充実加算
- ・ハイリスク妊娠管理加算
- ・総合評価加算
- ・病棟薬剤業務実施加算1
- ・退院支援加算1、地域連携診療計画加算有
- ・認知症ケア加算1
- ・特定集中治療室管理料1
- ・歯科外来診療環境体制加算
- ・総合入院体制加算2
- ・診療録管理体制加算2
- ・急性期看護補助体制加算（50対1）
- ・療養環境加算
- ・精神科リエゾンチーム加算
- ・医療安全対策加算1
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ・ハイリスク分娩管理加算
- ・呼吸ケアチーム加算
- ・データ提出加算2
- ・救命救急入院料1
- ・小児入院医療管理料3,4

(4) 特掲診療料

- ・高度難聴指導管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・糖尿病透析予防指導管理料
- ・外来放射線照射診療料
- ・がん治療連携計画策定料
- ・薬剤管理指導料
- ・医療機器安全管理料1,2
- ・歯科治療総合医療管理料（Ⅰ）及び（Ⅱ）
- ・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
- ・在宅血液透析指導管理料
- ・H P V核酸検出及びH P V核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
- ・検体検査管理加算（Ⅰ）
- ・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・ヘッドアップティルト試験
- ・神経学的検査
- ・C T透視下気管支鏡検査加算
- ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・糖尿病合併症管理料
- ・がん患者指導管理料1,2,3
- ・院内トリアージ実施料
- ・開放型病院共同指導料（Ⅱ）
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・地域連携診療計画加算
- ・医療機器安全管理料（歯科）
- ・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
- ・検体検査管理加算（Ⅳ）
- ・長期継続頭蓋内脳波検査
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- ・C T撮影及びM R I撮影
- ・外来化学療法加算1

- ・無菌製剤処理料
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算あり
- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算あり
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算あり
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・リンパ浮腫複合的治療料
- ・歯科口腔リハビリテーション料2
- ・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
- ・エタノールの局所注入（甲状腺）
- ・透析液水質確保加算2
- ・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- ・手術用顕微鏡加算
- ・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
- ・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
- ・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術
- ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- ・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）
- ・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）
- ・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
- ・経皮の中隔心筋焼灼術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- ・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
- ・体外衝撃波胆石破碎術
- ・腹腔鏡下肝切除術
- ・体外衝撃波膀胱石破碎術
- ・腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
- ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
- ・輸血管管理料Ⅰ
- ・輸血適正使用加算
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・歯周組織再生誘導手術
- ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- ・歯根端切除手術の注3
- ・麻酔管理料（Ⅰ）
- ・放射線治療専任加算
- ・外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療
- ・1回線量増加加算
- ・強度変調放射線治療（IMRT）
- ・画像誘導放射線治療（IGRT）
- ・体外照射呼吸性移動対策加算
- ・定位放射線治療
- ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
- ・病理診断管理加算2
- ・口腔病理診断管理加算2
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料
- ・酸素の購入単価

5 各種指定医・指定医療機関等の状況（平成29年4月1日現在）

(1) 指定医・指定医療機関

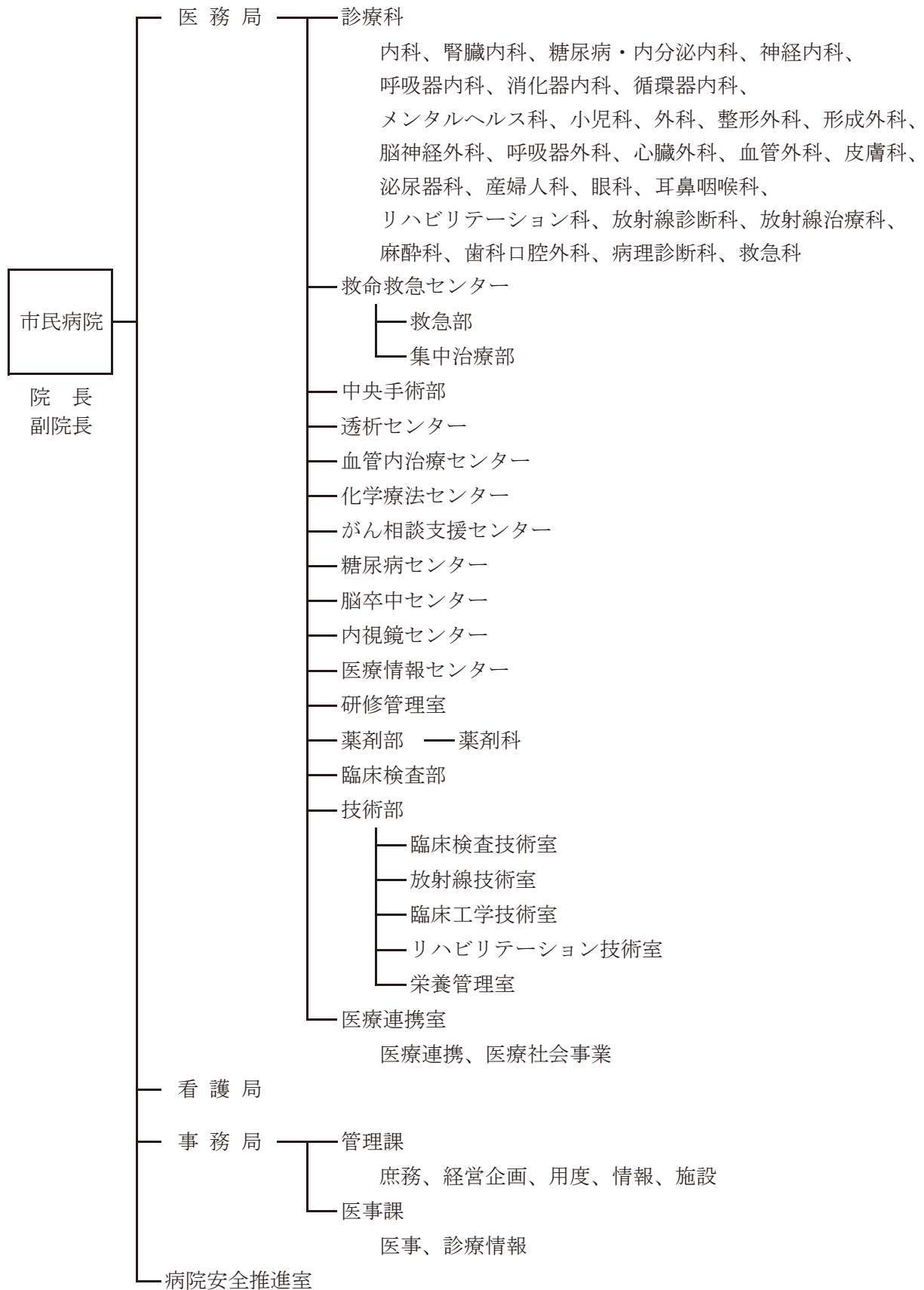
- ・ 保険医療機関
- ・ 救急告示病院
- ・ 労災保険指定医療機関
- ・ 生活保護法指定医療機関
- ・ 母体保護法指定医師
- ・ 臨床研修指定病院（医師法）
- ・ 指定自立支援医療機関
- ・ 肝疾患専門医療機関
- ・ 愛知県がん診療拠点病院
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 臓器提供施設
- ・ 救命救急センター
- ・ 国民健康保険療養取扱機関
- ・ 被爆者一般疾病医療機関
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 生活保護法指定医療機関（歯科）
- ・ 難病指定医療機関
- ・ 臨床研修指定施設（歯科医師法）
- ・ 病院機能評価認定病院
- ・ 災害拠点病院（地域中核災害拠点病院）
- ・ DMA T 指定医療機関
- ・ 卒後臨床研修評価認定病院
- ・ 指定小児慢性特定疾病医療機関
- ・ D P C 対象病院

(2) 認定等

- ・ 日本内科学会認定医制度教育病院
- ・ 日本透析医学会専門医制度認定施設
- ・ 日本神経学会専門医制度教育施設
- ・ 日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
- ・ 日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設
- ・ 日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・ 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- ・ 日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・ 日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
- ・ 日本腎臓学会研修施設
- ・ 日本肝臓学会認定施設
- ・ 日本脳神経外科学会専門医認定制度研修施設
- ・ 日本口腔外科学会専門医制度認定研修施設
- ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・ 日本集中治療医学会専門医研修施設
- ・ 日本呼吸器学会認定施設
- ・ 日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ・ 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・ 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・ 日本輸血細胞治療学会始め4学会認定輸血検査技師制度指定施設
- ・ 日本栄養療法推進協議会認定NST（栄養サポートチーム）稼働施設
- ・ 日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設
- ・ 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST（栄養サポートチーム）実施施設
- ・ 日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・ 日本臨床細胞学会施設認定

- ・日本臨床細胞学会教育研修施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）認定施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期専門医（新生児）認定施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本手外科学会認定研修施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本医療機能評価機構認定
- ・日本脈管学会始め関連10学会腹部ステントグラフト実施施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
- ・日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
- ・日本医療薬学会がん専門薬剤師認定制度がん専門薬剤師研修施設
- ・日本肝胆膵外科学会認定高度技能専門医修練施設B
- ・日本胆道学会認定指導医制度指導施設
- ・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
- ・日本臨床衛生検査技師会精度保証施設
- ・日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
- ・マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設
- ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（呼吸器科）
- ・日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設（小児科）
- ・日本顎顔面インプラント学会認定研修施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構施設画像評価委員会認定施設

6 組織（平成29年4月1日現在）



7 職員数

職 種	平成26年度	平成27年度	平成28年度
医 師	167 (29 - 36)	177 (32 - 42)	182 (31 - 41)
薬 剤 師	27	31	36 (- 2)
診療放射線技師	30 (- 2)	30 (- 1)	31 (- 1)
臨床検査技師	37 (- 9)	38 (- 8)	36 (- 6)
理学療法士	9	11	12
作業療法士	5	5	5
あん摩マッサージ指圧師	1	1	
はり 師	1	1	
臨床工学技士	16	18	16
視能訓練士	2	4 (- 2)	4 (- 2)
言語聴覚士	3	3	5 (- 1)
臨床心理士	2	2	2
小 計	133 (- 11)	144 (- 11)	147 (- 12)
助 産 師	37 (- 1)	32 (- 2)	31 (- 2)
看 護 師	573 (- 76)	570 (- 75)	581 (- 78)
准 看 護 師	13 (- 4)	14 (- 5)	13 (- 4)
歯科衛生士	6 (- 5)	9 (- 6)	12 (- 9)
小 計	629 (- 86)	625 (- 88)	637 (- 93)
行政事務職	52 (2 - 16)	54 (3 - 16)	60 (3 - 21)
行政技術職	2	2	2
栄 養 士	4 (- 1)	5 (- 1)	5 (- 1)
保 育 士	15 (- 14)	18 (- 17)	20 (- 19)
小 計	73 (2 - 31)	79 (3 - 34)	87 (3 - 41)
現 業 員	1	1	1
用 務 員	51 (- 50)	49 (- 48)	59 (- 58)
小 計	125 (2 - 81)	129 (3 - 82)	60 (- 58)
合 計	1,054 (31 - 214)	1,075 (35 - 223)	1,113 (34 - 245)

各年度6月1日現在の職員数。(-)は前が嘱託職員、後が臨時職員で内数。

休暇中職員を含む。

8 主要医療器械備品（平成28年度購入分）

※購入金額：税込2,000万円以上

No.	器 械 名	購入年月日	所 属
1	注射薬自動払出装置	7月19日	薬剤部
2	コンピュータ断層撮影装置	8月30日	放射線技術室
3	乳房X線撮影装置	9月16日	放射線技術室
4	心臓超音波画像診断装置	9月27日	臨床検査技術室
5	電動ベッド	2月10日	看護局

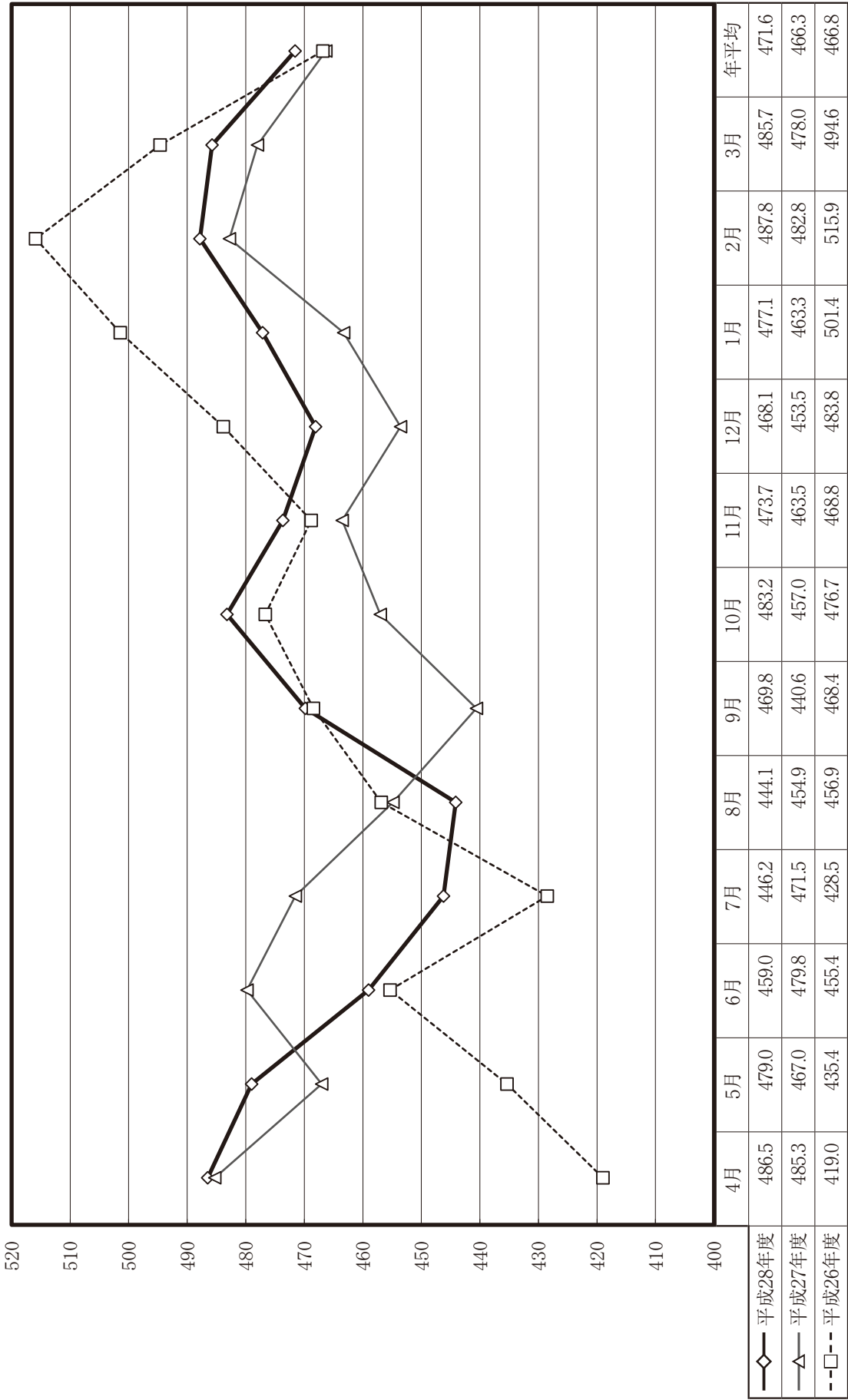
II 業務概要

1 入院者数

(単位:人)

科	平成28年												平成29年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
内科	1,346	1,514	1,385	1,531	1,643	1,476	1,369	1,310	1,396	1,726	1,512	1,519	17,727			
神経内科	1,239	1,280	1,156	1,036	1,089	1,118	1,263	1,108	1,175	1,514	936	1,027	13,941			
呼吸器科	926	994	1,084	888	890	1,170	988	1,009	1,187	1,116	1,230	1,321	12,803			
消化器科	2,673	2,693	2,776	2,632	2,796	2,817	2,638	2,452	2,760	2,616	2,388	2,497	31,738			
循環器科	1,122	1,136	828	808	812	760	1,056	1,213	1,160	1,621	1,568	1,478	13,562			
小児科	730	829	678	581	671	680	840	693	587	550	523	524	7,886			
外科	1,616	1,752	1,740	1,691	1,517	1,581	1,929	1,783	1,756	1,545	1,367	1,807	20,084			
整形外科	2,008	1,891	1,491	1,937	1,791	1,802	2,054	2,062	1,998	1,778	1,569	1,979	22,360			
形成外科	58	51	30	3	12	0	0	0	0	0	0	0	154			
脳神経外科	981	848	755	769	701	713	1,091	963	703	693	909	1,034	10,160			
呼吸器外科	0	2	5	8	0	5	5	0	0	0	0	0	25			
心臓血管外科	16	28	15	0	25	18	23	22	18	43	23	0	231			
皮膚科	123	156	122	279	283	331	289	215	281	264	217	276	2,836			
泌尿器科	384	428	433	360	290	474	385	334	309	383	487	573	4,840			
産婦人科	792	707	743	762	670	618	504	551	634	405	493	531	7,410			
眼科	82	66	111	78	115	94	76	89	57	109	68	115	1,060			
耳鼻いんこう科	181	211	207	261	228	232	214	203	213	253	184	208	2,595			
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
歯科口腔外科	318	263	212	209	235	206	256	203	276	175	185	169	2,707			
計	14,595	14,849	13,771	13,833	13,768	14,095	14,980	14,210	14,510	14,791	13,659	15,058	172,119			
実働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365			
1日平均	486.5	479.0	459.0	446.2	444.1	469.8	483.2	473.7	468.1	477.1	487.8	485.7	471.6			
新生児	231	175	166	183	181	119	122	97	134	94	92	166	1,760			
感染症病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
平成27年度	14,559	14,478	14,394	14,617	14,101	13,218	14,167	13,906	14,060	14,361	14,001	14,818	170,680			
平成26年度	12,569	13,497	13,661	13,283	14,163	14,053	14,777	14,065	14,999	15,544	14,445	15,334	170,390			

1日平均入院患者数の推移

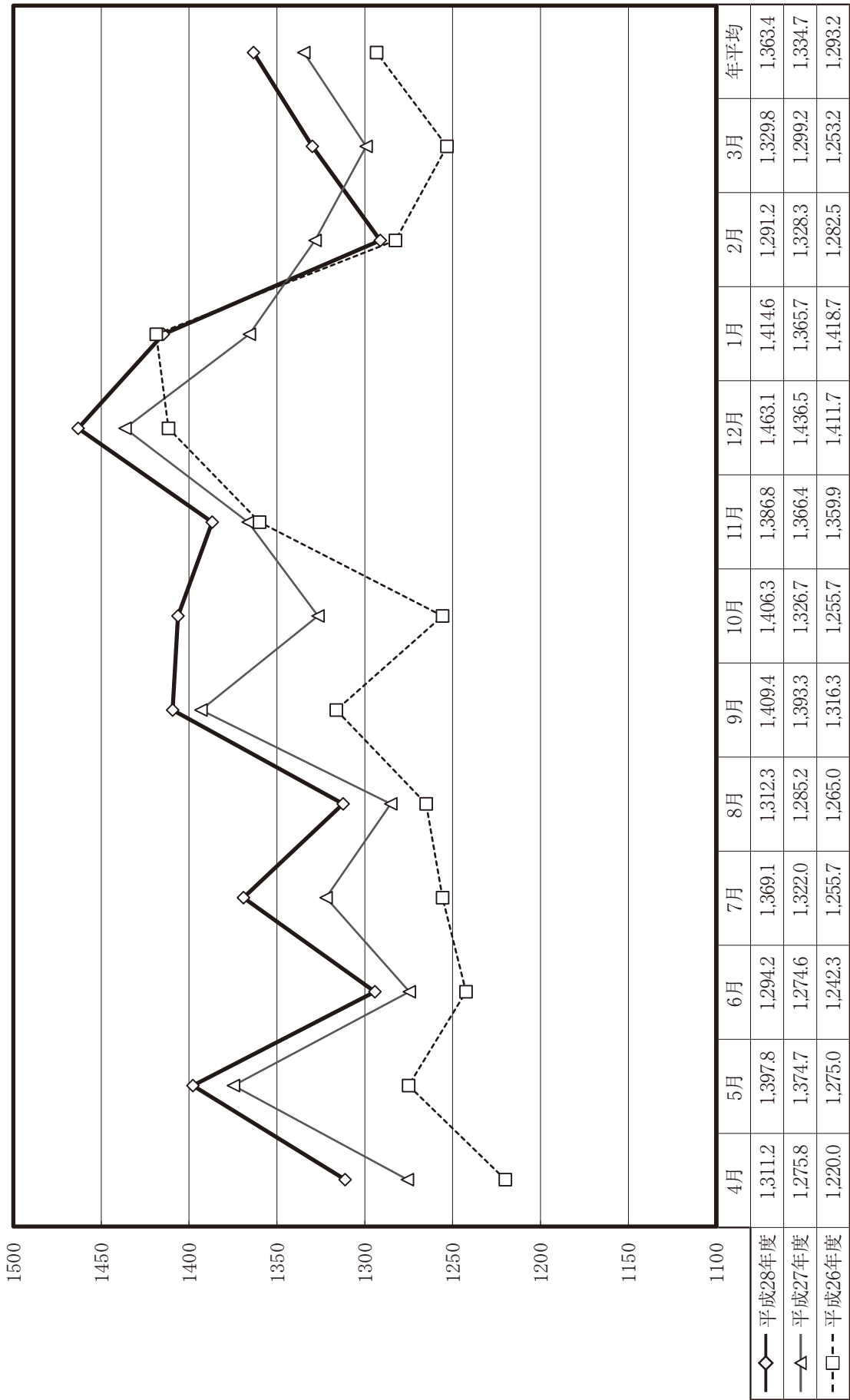


2 外来受診者数

(単位:人)

科	平成28年												平成29年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
内科	4,246	4,095	4,271	4,276	4,568	4,404	4,337	4,358	4,314	4,650	4,150	4,548	52,217			
メンタルヘルス科	261	278	286	259	307	274	263	280	296	284	258	292	3,338			
神経内科	1,680	1,505	1,732	1,634	1,737	1,684	1,617	1,561	1,563	1,575	1,515	1,698	19,501			
呼吸器科	809	857	874	876	888	933	954	996	1,023	1,046	881	1,018	11,155			
消化器科	2,800	2,772	3,067	2,798	2,996	2,980	3,006	3,074	3,055	2,827	2,795	2,988	35,158			
循環器科	1,337	1,451	1,512	1,346	1,278	1,420	1,405	1,481	1,406	1,478	1,426	1,596	17,136			
小児科	1,864	1,930	2,039	2,020	2,189	1,850	1,940	1,837	2,020	1,822	1,549	1,897	22,957			
外科	1,806	1,852	2,092	2,012	2,063	1,960	1,976	1,953	1,907	1,771	1,915	1,984	23,291			
整形外科	2,301	2,398	2,343	2,371	2,745	2,483	2,588	2,587	2,429	2,318	2,401	2,809	29,773			
形成外科	267	268	277	50	38	35	24	19	21	23	22	35	1,079			
脳神経外科	765	689	801	719	725	783	819	750	706	700	683	784	8,924			
呼吸器外科	27	27	23	25	32	36	31	36	41	28	22	29	357			
心臓血管外科	17	16	22	16	23	14	19	20	18	20	20	24	229			
皮膚科	920	1,016	1,134	1,293	1,250	1,270	1,289	1,155	1,233	1,142	1,165	1,377	14,244			
泌尿器科	1,481	1,482	1,584	1,533	1,478	1,666	1,539	1,437	1,575	1,510	1,391	1,561	18,237			
産婦人科	959	1,257	1,481	1,309	1,383	1,339	1,374	1,300	1,237	1,176	1,214	1,340	15,369			
眼科	822	779	947	868	899	989	891	906	864	886	841	929	10,621			
耳鼻いんこう科	1,324	1,307	1,373	1,290	1,364	1,239	1,300	1,241	1,345	1,258	1,203	1,418	15,662			
リハビリテーション科	639	652	672	632	759	730	653	665	661	619	658	845	8,185			
放射線科	375	339	301	286	400	350	354	338	295	160	79	90	3,367			
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
歯科口腔外科	1,524	1,588	1,641	1,768	1,748	1,749	1,747	1,741	1,790	1,584	1,635	1,994	20,509			
計	26,224	26,558	28,472	27,381	28,870	28,188	28,126	27,735	27,799	26,877	25,823	29,256	331,309			
実働日数	20	19	22	20	22	20	20	20	19	19	20	22	243			
1日平均	1,311.2	1,397.8	1,294.2	1,369.1	1,312.3	1,409.4	1,406.3	1,386.8	1,463.1	1,414.6	1,291.2	1,329.8	1,363.4			
平成27年度	26,791	24,745	28,041	29,083	26,989	26,472	27,860	25,961	27,293	25,949	26,566	28,582	324,332			
平成26年度	25,621	25,500	26,089	27,626	26,565	26,325	27,625	24,478	26,823	26,956	24,368	27,571	315,547			

1日平均外来受診者数の推移



3 入院・外来の患者構成と居住地区
年齢別入院患者数

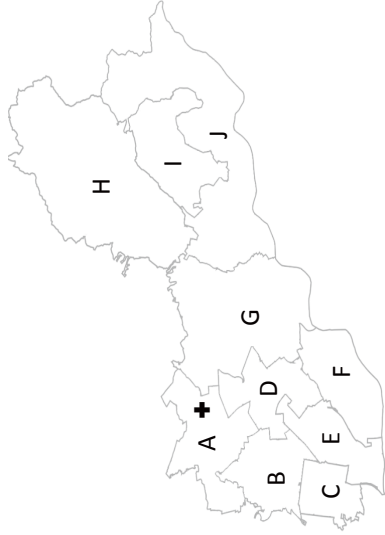
(単位:人)

	平成27年度	平成28年度
100歳以上	23	31
90歳代	621	614
80歳代	2,465	2,681
70歳代	3,331	3,412
60歳代	2,288	2,301
50歳代	1,029	1,013
40歳代	795	876
30歳代	534	505
20歳代	319	316
10歳代	323	343
0～9歳	1,526	1,264
計	13,254	13,356
平均年齢	59.7歳	61.3歳

居住地区別入院患者数

(単位:人)

地区名	平成27年度	平成28年度
鷹来地区	1,398	1,303
春日井地区	1,068	1,114
味美地区	864	828
中部地区	1,466	1,596
勝川地区	1,333	1,356
南部地区	1,089	1,109
東部地区	2,168	2,167
坂下地区	451	498
ニュータウン地区	804	744
高蔵寺地区	647	612
小牧市	1,148	1,157
名古屋守山区	210	210
その他	608	662
計	13,254	13,356



A:鷹来地区
B:春日井地区
C:味美地区
D:中部地区
E:勝川地区
+:市民病院

F:南部地区
G:東部地区
H:坂下地区
I:ニュータウン地区
J:高蔵寺地区

居住地区別外来患者数

(単位:人)

地区名	平成27年度	平成28年度
鷹来地区	5,826	5,459
春日井地区	5,139	4,913
味美地区	3,418	3,266
中部地区	6,602	6,374
勝川地区	5,844	5,652
南部地区	5,063	4,770
東部地区	9,839	9,445
坂下地区	2,156	2,082
ニュータウン地区	3,925	3,749
高蔵寺地区	3,454	3,285
小牧市	5,750	5,344
名古屋守山区	1,578	1,406
その他	4,471	4,096
計	63,065	59,841

(単位:人)

	平成27年度	平成28年度
100歳以上	45	39
90歳代	1,202	1,097
80歳代	6,158	5,935
70歳代	10,799	10,514
60歳代	8,882	8,724
50歳代	5,749	5,531
40歳代	7,001	6,653
30歳代	5,777	5,039
20歳代	4,439	3,905
10歳代	4,273	3,970
0～9歳	8,740	8,434
計	63,065	59,841
平均年齢	48.2歳	48.6歳

4 医療連携事業

(単位:人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
紹介受入患者数	25,878	28,241	29,744
診療	18,178	20,249	21,952
胃瘻交換	112	113	87
P T A	15	10	11
胃カメラ	544	540	457
腹部エコー	69	88	72
心エコー	137	134	113
注腸透視	113	105	60
脳波	16	7	14
C T	1,943	2,174	2,204
M R	1,186	1,273	1,247
アイソトープ	43	45	40
M M G	125	127	130
小計	4,176	4,493	4,337
外来患者数合計	22,481	24,865	26,387
入院患者数	3,397	3,376	3,357

外来
医療機器共同利用

(科別紹介患者数)

(単位:人)

	紹介受入患者数	紹介目的			紹介経路		
		検査	外来	入院	当日	連携室	WEB
内科	2,123	13	1,660	450	1,305	818	0
神経内科	1,660	15	1,461	184	1,067	593	0
呼吸器科	1,511	1	1,170	340	967	544	0
消化器科	4,100	674	2,802	624	2,169	1,780	151
循環器科	2,696	134	2,218	344	1,353	1,270	73
内科小計	12,090	837	9,311	1,942	6,861	5,005	224
メンタルヘルス科	59	0	59	0	36	23	0
小児科	2,078	0	1,551	527	1,805	273	0
外科	1,964	128	1,648	188	1,151	813	0
整形外科	1,848	0	1,554	294	1,324	524	0
形成外科	67	0	66	1	41	26	0
脳神経外科	824	0	731	93	601	223	0
呼吸器外科	18	0	17	1	10	8	0
心臓血管外科	18	0	18	0	13	5	0
皮膚科	909	0	860	49	648	261	0
泌尿器科	1,043	0	1,000	43	687	356	0
産婦人科	1,040	0	969	71	796	244	0
眼科	643	0	625	18	541	102	0
耳鼻いんこう科	1,354	1	1,255	98	990	364	0
リハビリテーション科	3	0	1	2	3	0	0
放射線科	3,551	3,469	72	10	1	3,122	428
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	2,235	0	2,215	20	1,948	287	0
計	29,744	4,435	21,952	3,357	17,456	11,636	652
平成27年度	28,241	4,616	20,249	3,376	16,192	11,244	805
平成26年度	25,878	4,303	18,178	3,397	15,307	9,772	799

5 紹介・逆紹介患者数及び紹介率

(単位:人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
紹介患者数(初診)(A)	19,916	20,669	22,412
逆紹介患者数(B)	23,456	25,608	25,080
初診患者数(C)	51,693	50,835	47,089
救急車来院初診患者数(D)	6,835	5,926	6,317
休日夜間受診初診患者数(E)	14,293	13,678	11,661
紹介率(A)/(C-D-E)	65.16%	66.18%	76.99%
逆紹介率(B)/(C-D-E)	76.74%	82.00%	86.15%

※平成26年4月に変更された地域医療支援病院の計算式で算出

6 救急患者受入状況

(単位:件)

科	機関	消防署	救急情報センター	医療機関	休日急病診療所	直接	電話依頼	計
内科		934	1	140	24	1,474	528	3,101
メンタルヘルス科		0	0	1	0	0	0	1
神経内科		2,019	0	151	21	904	422	3,517
呼吸器科		533	0	159	19	383	145	1,239
消化器科		1,177	0	335	50	1,536	739	3,837
循環器科		804	0	120	21	628	274	1,847
小児科		671	2	509	100	2,711	1,473	5,466
外科		167	0	91	19	214	108	599
整形外科		1,595	2	203	40	2,116	974	4,930
形成外科		13	0	2	0	29	27	71
脳神経外科		1,103	0	96	8	992	590	2,789
呼吸器外科		0	0	0	0	3	0	3
心臓血管外科		0	0	1	0	1	0	2
皮膚科		75	3	35	10	557	257	937
泌尿器科		154	0	53	12	394	193	806
産婦人科		78	0	23	2	198	304	605
眼科		15	0	12	1	190	122	340
耳鼻いんこう科		326	2	59	6	676	349	1,418
リハビリテーション科		0	0	0	0	0	0	0
放射線科		0	0	0	0	0	0	0
麻酔科		0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科		55	1	13	2	183	86	340
計		9,719	11	2,003	335	13,189	6,591	31,848
平成 27 年度		9,324	8	1,751	271	15,123	8,222	34,699
平成 26 年度		10,241	12	1,666	201	15,147	9,140	36,407

7 手術等件数

(単位:件)

区分	年月	平成28年												平成29年			月平均
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計			
手	内科	40	52	35	42	52	48	52	54	49	57	55	50	586	48.8		
	メンタルヘルス科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	呼吸器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	消化器科	7	5	13	10	10	11	7	9	7	13	13	15	120	10.0		
	循環器科	57	44	56	40	40	40	37	42	57	54	38	43	548	45.7		
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	外科	117	126	142	132	137	123	135	130	149	131	119	161	1,602	133.5		
	整形外科	91	83	86	91	101	79	101	89	98	86	87	129	1,121	93.4		
	形成外科	7	7	5	1	0	0	1	0	0	0	0	0	21	1.8		
	脳神経外科	15	21	25	22	25	23	19	21	24	13	23	20	251	20.9		
	呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	心臓血管外科	1	2	0	0	1	1	2	1	1	2	1	0	12	1.0		
	皮膚科	3	4	5	9	9	5	7	7	7	8	7	8	79	6.6		
	泌尿器科	20	14	16	16	12	15	17	14	11	15	24	17	191	15.9		
	産婦人科	44	37	44	41	46	34	34	35	42	33	38	40	468	39.0		
	眼科	36	28	43	35	50	30	40	40	33	39	37	49	460	38.3		
耳鼻いんこう科	15	8	19	23	17	27	13	16	17	16	12	17	200	16.7			
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0			
放射線科	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0.4			
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0			
歯科口腔外科	16	7	17	12	22	10	14	14	12	9	12	15	160	13.3			
計	469	439	508	475	523	446	479	472	507	476	466	564	5,824	485.3			
平成27年度	415	395	440	463	470	416	431	413	419	463	436	469	5,230	435.8			
平成26年度	393	405	395	438	434	412	456	374	473	417	408	469	5,074	422.8			
眼 レンズ	平成28年度	33	26	37	33	47	28	39	37	27	33	34	40	414	34.5		
	平成27年度	20	24	30	23	28	17	19	27	20	34	37	32	311	25.9		
	平成26年度	25	36	30	33	30	21	37	20	23	21	16	28	320	26.7		
ESWL	平成28年度	4	7	5	4	6	7	3	3	4	7	8	6	64	5.3		
	平成27年度	6	4	9	5	6	5	6	4	3	5	6	6	65	5.4		
	平成26年度	2	2	9	6	5	2	5	2	9	3	5	7	57	4.8		

8 人工透析件数 (単位:件)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
件数	12,814	12,626	12,109
月平均	1,067.8	1,052.2	1,009.1

9 分娩件数 (単位:件)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
件数	368	371	305

10 剖検件数 (単位:件)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
件数	16	11	14

11 栄養指導等件数 (単位:件)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
栄養指導	2,393	2,732	2,336
栄養サポートチーム	219	181	149

12 処方せん枚数、薬剤管理指導件数 (単位:件)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
入院	70,547	73,039	71,547
外来処方せん枚数	16,542	15,443	13,790
注射せん枚数	130,836	135,386	134,429
T P N無菌調製件数	5,984	3,142	1,270
化学療法調製件数	5,460	6,163	5,987
薬剤管理指導件数	14,178	22,509	23,053
計	243,547	255,682	250,076
院外処方せん	132,728	135,195	135,870
院外処方せん発行率	88.9	89.7	90.8

13 検査件数 (単位:件)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
生化学	2,003,653	2,151,826	2,201,100
免疫	179,677	195,165	202,468
血液	771,755	819,356	824,099
一般	487,429	527,609	510,730
細菌	53,019	57,570	59,270
病理	13,015	13,619	13,843
生	34,621	37,065	38,864
計	3,543,169	3,802,210	3,850,374

14 放射線撮影件数

(単位:件)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
一般	単純撮影	79,489	80,528
	ポータブル	10,048	11,609
骨塩測定	732	1,106	1,678
M	R	17,235	17,325
乳腺エコー	1,476	1,829	1,903
C	T	42,542	43,069
泌尿器科・婦人科撮影	301	326	316
透視	UGI	259	266
	腸	345	270
	透視検査	5,670	5,878
アイントープ	1,771	2,112	2,086
放射線治療	4,273	4,411	4,872
血管	心カテー	931	1,077
	脳・腹部・その他	1,030	1,161
データ	画像入力	3,596	4,666
	画像出力	8,676	9,663
ESWL	93	123	92
計	177,738	182,280	186,208

15 各種検診等

区分	件数(件)	金額(円)	健診日
乳児健診	291	1,751,860	毎週月曜日
妊婦健診	3,226	24,064,540	平日診療日
被爆者健診	38	298,238	6月・11月
乳児予防接種	86	907,820	毎週火・木曜日
肺炎球菌予防接種(高齢者)	103	571,416	平日診療日
インフルエンザ予防接種(高齢者)	830	2,326,546	平日診療日
X-P委託	10	21,600	
結核定期病状調査	23	69,000	
その他の	612	12,011,103	
計	5,219	42,022,123	

16 がん相談支援センター相談件数

(単位:件)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
件数	1,895	1,843	2,337

17 特殊外来の状況

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	27年度	26年度
女性専用外来	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	5	0.4	14	15
新生児聴覚検査	31	26	26	27	30	18	22	18	16	13	16	25	268	22.3	316	311
日帰り手術	消化器科	10	15	22	28	20	22	16	13	14	20	26	230	19.2	201	207
	外科	8	6	20	11	9	7	15	14	5	14	10	124	10.3	130	104
	形成外科	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.2	6	13
計	19	22	42	39	29	29	29	31	27	19	34	36	356	29.7	337	324
外来化学療法	391	371	409	392	421	413	398	405	435	420	420	473	4,948	412.3	4,635	4,076
緩和ケア外来	98	111	101	90	105	102	81	101	81	88	60	106	1,124	93.7	721	130
小児アレルギー外来	139	94	138	116	141	91	106	109	120	100	110	115	1,379	114.9	1,845	1,471
リウマチ外来	65	63	80	76	99	80	81	102	93	80	90	117	1,026	85.5	591	
もの忘れ外来	69	44	52	50	51	70	62	59	60	60	64	69	710	59.2	563	534
脳卒中外来	32	45	36	32	30	32	29	36	37	35	38	34	416	34.7	271	223

18 入院患者数とクリニカルパス適用患者数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
入院患者数	13,659	14,031	14,101
クリニカルパス適用患者数	5,477	6,023	6,126

19 市民公開講座

平成26年度

日付	題名	診療科	講師	参加人数
6月21日(土)	体の健康は口の中から	歯科口腔外科	脇田 壮	38人
	肺炎を予防するためのポイント	看護局	松永 美保	
	正しいブラッシング方法	看護局(歯科衛生士)	清水 純子	
9月13日(土)	怖い腎臓病を早期発見するために	内科(医務局長)	成瀬 友彦	230人
	慢性腎臓病(CKD)の現状と課題	院長	渡邊 有三	
12月13日(土)	肺がんと言われたらどうする?	副院長(呼吸器科)	松本 修一	120人
2月14日(土)	食物アレルギーの診断と治療について	小児科	小林 貴江	76人
	家庭でのアレルゲン除去について	栄養管理室	大門 有紀	
	いざという時のエピペン注射	薬剤部	服部 芳明	

平成27年度

日付	題名	診療科	講師	参加人数
6月13日(土)	よくわかる前立腺がんのはなし	泌尿器科	春日井 震	132人
	当院の放射線治療とトモセラピーについて	放射線科	小崎 桂	
9月26日(土)	肝臓病に使うわかりやすい薬のはなし	薬剤部	中崎 みづき	233人
	肝臓病の最新情報	消化器科	祖父江 聡	
12月12日(土)	もの忘れと認知症のおはなし	神経内科	寺尾 心一	253人
		看護部	伊藤 松恵	
2月6日(土)	よくある眼の病気	眼科	福田 紘子	228人
	知っておきたい耳と鼻の病気	耳鼻咽喉科	佐藤 雄二	

平成28年度

日付	題名	診療科	講師	参加人数
6月18日(土)	しのびよる病気 骨粗しょう症	整形外科	泉田 誠	130人
	転倒予防について	リハビリテーション技術室	中崎 亨	
9月10日(土)	乳がんの診断から治療の最新情報	化学療法センター	古田 美保	83人
	3Dマンモグラフィ	放射線技術室	大水 裕子	
12月3日(土)	よくわかる不整脈と心不全のお話し	循環器科	小栗 光俊	190人
		循環器科	大口 志央	
2月11日(土)	診断と治療	脳神経外科	桑山 直人	174人
	看護ケア	看護局	清原 達観	

Ⅲ 経理概要

1 年度別収支状況（消費税抜）

(1) 総括

（単位：円）

科 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度
医 業 収 益	13,707,678,937	14,354,268,960	14,833,508,113
医 業 費 用	13,844,655,652	13,989,783,603	14,519,100,077
差引医業損益	△ 136,976,715	364,485,357	314,408,036
経 常 収 益	14,880,198,964	15,485,880,034	15,962,887,549
経 常 費 用	14,724,137,425	14,985,997,872	15,286,090,842
差引経常損益	156,061,539	499,882,162	676,796,707
病院事業収益	14,880,198,964	15,485,880,034	15,962,887,549
病院事業費用	17,503,475,664	14,986,008,222	15,286,090,842
差引純損益	△ 2,623,276,700	499,871,812	676,796,707
資 本 的 収 入	194,758,669	205,797,001	400,820,001
資 本 的 支 出	1,733,446,745	1,625,596,900	1,906,837,168
資本的収支差引	△ 1,538,688,076	△ 1,419,799,899	△ 1,506,017,167

(2) 収益的収支

病院事業収益

(単位:円)

科 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度
医業収益	13,707,678,937	14,354,268,960	14,833,508,113
入院収益	9,334,140,513	9,731,419,625	10,011,235,864
外来収益	4,007,489,739	4,233,292,489	4,410,595,543
その他医業収益	366,048,685	389,556,846	411,676,706
医業外収益	1,172,520,027	1,131,611,074	1,129,379,436
受取利息配当金	4,749,772	4,845,906	1,578,059
他会計補助金	761,424,000	787,498,000	784,044,000
補助金	22,539,000	25,951,000	22,955,000
長期前受金戻入	188,599,407	108,660,076	108,760,988
その他医業外収益	195,207,848	204,656,092	212,041,389
特別利益	0	0	0
固定資産売却益	0	0	0
過年度損益修正益	0	0	0
その他特別利益	0	0	0
計	14,880,198,964	15,485,880,034	15,962,887,549

病院事業費用

科 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度
医業費用	13,844,655,652	13,989,783,603	14,519,100,077
給与費	7,077,631,660	7,501,383,087	7,874,525,177
材料費	2,623,397,953	2,910,333,100	3,153,738,972
経費	2,297,225,958	2,311,115,432	2,347,439,783
減価償却費	1,770,662,081	1,194,352,741	1,067,390,526
資産減耗費	33,373,806	20,909,421	28,281,944
研究研修費	42,364,194	51,689,822	47,723,675
医業外費用	879,481,773	996,214,269	766,990,765
支払利息及び 企業債取扱諸費	211,583,169	198,032,508	184,216,094
繰延勘定償却	146,624,000	122,094,000	9,500,000
雑損失	521,274,604	676,087,761	573,274,671
特別損失	2,779,338,239	10,350	0
固定資産売却損	0	0	0
過年度損益修正損	6,992	10,350	0
その他特別損失	2,779,331,247	0	0
計	17,503,475,664	14,986,008,222	15,286,090,842

(3) 資本的収支

資本的収入

(単位:円)

科 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度
企 業 債	0	0	0
出 資 金	183,902,000	187,290,000	190,744,000
負 担 金	0	0	0
工 事 収 入	0	0	0
他会計貸付金返還金	0	0	200,000,000
固定資産売却代金	0	0	0
その他資本的収入	10,856,669	9,800,001	7,400,001
国 庫 補 助 金	0	0	0
県 補 助 金	0	8,707,000	2,676,000
計	194,758,669	205,797,001	400,820,001

資本的支出

科 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度
建 設 改 良 費	960,829,840	821,238,544	1,088,962,398
償 還 金	735,607,695	749,158,356	762,974,770
投 資	37,009,210	55,200,000	54,900,000
計	1,733,446,745	1,625,596,900	1,906,837,168

2 貸借対照表(消費税抜)

資産の部

(単位:円)

科 目	借		方
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
固定資産	24,450,653,389	23,663,686,800	23,336,467,188
有形固定資産	23,293,578,559	22,663,611,970	22,127,481,358
土地	8,380,094,431	8,380,094,431	8,380,094,431
建物	11,867,947,818	11,551,543,839	11,147,171,717
構築物	167,736,800	163,492,336	157,799,072
器械備品	2,320,966,173	2,250,107,894	2,247,742,919
車両運搬具	7,089,237	5,673,770	4,337,899
リース資産	549,744,100	312,699,700	190,335,320
建設仮勘定	0	0	0
無形固定資産	0	0	408,911,000
ソフトウェア	0	0	421,000
ソフトウェア仮勘定	0	0	408,490,000
投資	1,157,074,830	1,000,074,830	800,074,830
貸付金	157,000,000	166,300,000	179,100,000
貸付金貸倒引当金	0	△ 166,300,000	△ 179,100,000
一般会計貸付金	1,000,000,000	1,000,000,000	800,000,000
その他投資	74,830	74,830	74,830
流動資産	8,487,088,179	8,964,871,685	9,479,450,911
現金預金	6,028,633,778	6,420,062,753	6,956,110,246
未収金	2,276,126,717	2,358,912,062	2,323,598,400
未収金	2,363,126,717	2,443,351,062	2,398,220,400
貸倒引当金	△ 87,000,000	△ 84,439,000	△ 74,622,000
保管有価証券	0	0	0
貯蔵品	179,054,965	184,353,870	199,373,465
前払金	3,272,719	1,543,000	368,800
繰延勘定	131,594,000	9,500,000	0
開発費	131,594,000	9,500,000	0
資産合計	33,069,335,568	32,638,058,485	32,815,918,099

負債の部

科 目	貸 方		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
固定負債	14,064,068,558	13,119,575,648	12,255,974,014
企業債	10,244,077,578	9,481,102,808	8,704,040,358
リース債務	297,753,980	190,110,840	101,080,656
引当金	3,522,237,000	3,448,362,000	3,450,853,000
退職給付引当金	2,832,000,000	2,834,825,000	2,945,986,000
修繕引当金	690,237,000	613,537,000	504,867,000
流動負債	2,987,153,097	2,913,160,188	3,193,165,717
企業債	749,158,356	762,974,770	777,062,450
リース債務	270,621,408	139,196,852	101,612,400
未払金	1,399,427,732	1,546,381,965	1,825,493,066
預り有価証券	0	0	0
前受金	4,600,601	4,793,601	4,247,801
引当金	562,345,000	458,813,000	483,750,000
賞与引当金	562,345,000	458,813,000	483,750,000
その他流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
繰延収益	2,875,597,950	2,775,644,874	2,669,559,886
長期前受金	5,949,709,677	5,956,934,278	5,959,610,278
受贈財産評価額	206,133,801	206,133,801	206,133,801
国庫補助金	307,935,479	307,935,479	307,935,479
県補助金	140,983,397	148,207,998	150,883,998
負担金	5,294,657,000	5,294,657,000	5,294,657,000
収益化累計額	△ 3,074,111,727	△ 3,181,289,404	△ 3,290,050,392
受贈財産評価額	△ 73,315,723	△ 78,345,843	△ 83,375,963
国庫補助金	△ 119,183,389	△ 126,934,757	△ 134,208,371
県補助金	△ 64,499,284	△ 68,725,901	△ 75,013,583
負担金	△ 2,817,113,331	△ 2,907,282,903	△ 2,997,452,475
負債合計	19,926,819,605	18,808,380,710	18,118,699,617

資本の部

科 目	貸 方		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
資本金	20,041,996,494	20,229,286,494	20,420,030,494
資本金	20,041,996,494	20,229,286,494	20,420,030,494
借入資本金	0	0	0
企業債	0	0	0
剰余金	△ 6,899,480,531	△ 6,399,608,719	△ 5,722,812,012
資本剰余金	186,335,232	186,335,232	186,335,232
受贈財産評価額	4,258,000	4,258,000	4,258,000
国庫補助金	165,325,946	165,325,946	165,325,946
県補助金	16,751,286	16,751,286	16,751,286
負担金	0	0	0
利益剰余金	△ 7,085,815,763	△ 6,585,943,951	△ 5,909,147,244
減債積立金	0	0	0
建設改良積立金	0	0	0
当年度末処分利益剰余金 (当年度末処理欠損金)	△ 7,085,815,763	△ 6,585,943,951	△ 5,909,147,244
資本合計	13,142,515,963	13,829,677,775	14,697,218,482
負債・資本合計	33,069,335,568	32,638,058,485	32,815,918,099

3 経営分析

項 目				平成26年度	平成27年度	平成28年度		
病 利 用 床 率	一	般	年間延入院患者数/年間延 病床数×100	(%)	84.0	83.9	84.8	
	感	染	年間延入院患者数/年間延 病床数×100	(%)	0.0	0.0	0.0	
患 者 数	外来・入院患者比率		年間延外来患者数/年間延 入院患者数×100	(%)	185.2	190.0	192.5	
	職員1人 1日当たり 患者数	医 師	入院	年間延入院患者数/年間延 医師数	(人)	3.4	3.3	3.3
			外来	年間延外来患者数/年間延 医師数	(人)	6.3	6.2	6.3
		看 護 部 門 職 員	入院	年間延入院患者数/年間延 看護部門職員数	(人)	0.8	0.8	0.8
			外来	年間延外来患者数/年間延 看護部門職員数	(人)	1.4	1.4	1.5
平 均 在 院 日 数			延在院患者数/(入院患者 数+退院患者数)÷2)	(日)	11.5	11.2	11.2	
平均外来一人当たり通院回数			年間延外来患者数/年間新 規外来患者数	(回)	5.7	6.0	6.6	
収 入	患者1人 1日当たり 診療収入	入 院	入院収益/年間延入院患者数	(円)	54,781	57,016	58,165	
		外 来	外来収益/年間延外来患者数	(円)	12,700	13,052	13,313	
薬 品	患者1人1日当たり 薬 品 費		薬品費(投薬注射)/年間 延患者総数	(円)	2,147	2,317	2,425	
	薬 品 使 用 効 率		薬品収入/薬品費(投薬注 射)×100	(%)	69.8	74.4	79.3	
診 療 収 入 割 合	投 薬 注 射 収 入		投薬注射収入/入院外来収 益×100	(%)	5.5	6.1	6.7	
	検 査 収 入		検査収入/入院外来収益× 100	(%)	8.8	8.8	8.7	
	放 射 線 収 入		放射線収入/入院外来収 益×100	(%)	7.2	7.4	7.2	
医 業 収 益 割 合	薬 品 費		薬品費(投薬注射)/医業 収益×100	(%)	7.6	8.0	8.2	
	医 療 材 料 費		医療材料費/医業収益×100	(%)	19.1	20.3	21.3	
	職 員 給 与 費		職員給与費/医業収益×100	(%)	51.6	52.3	53.1	
機 能 評 価 係 数 II			-	-	0.0555	0.0579	0.0742	
ク リ ニ カ ル パ ス 適 応 率			パス使用退院患者数/退院 患者数	(%)	40.1	42.9	43.4	
総 収 支 比 率			総収益/総費用×100	(%)	85.0	103.3	104.4	
経 常 収 支 比 率			経常収益/経常費用×100	(%)	101.1	103.3	104.4	
医 業 収 支 比 率			医業収益/医業費用×100	(%)	99.0	102.6	102.2	

※機能評価係数Ⅱとは、DPCの包括評価部分の算出に用いる医療機関別係数のひとつ。保険診療係数、効率性係数、複雑性係数、カバー率係数、救急医療係数、地域医療係数、後発医薬品係数、重症度係数の8項目から算出され、各係数が大きいと高度な医療機能を有するとみなされる。

病院新聞「さくら」の発行

市民病院では平成17年8月から、地域の皆様へ向けた病院新聞を発行しています。病気のおはなし、当院の治療実績や、病院行事などを取り上げて紹介しています。春日井市民病院ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.hospital.kasugai.aichi.jp>



○Vol.33 平成28年4月1日号

- ・看護局の取り組み
- ・健康診断で異常と診断されたら
- ・平成27年度病院満足度調査
- ・シリーズ 薬の使い方
- ・初診および再診にかかる選定療養費の負担をお願いします
- ・市民公開講座のお知らせ



○Vol.34 平成28年8月1日号

- ・皮膚科の診療体制
- ・災害時拠点病院として
- ・万が一のためにお薬手帳を持ちましょう
- ・当院での出産を通しての成長
- ・タリーズコーヒー オープンのお知らせ
- ・市民公開講座のお知らせ



○Vol.35 平成29年1月1日号

- ・平成29年の年頭にあたって
- ・緩和ケアについてどのようにお考えですか？
- ・80列マルチスライスCT装置2台導入
- ・3Dマンモグラフィ導入
- ・もの忘れと認知症のおはなし（第6回）
- ・糖尿病療養指導チーム 理学療法士の関わり
- ・産婦人科病棟 アドバンス助産師 誕生！
- ・薬の使い方
- ・市民公開講座のお知らせ

中日新聞「リンクト」LINKED

「病院を知ろう」に
春日井市民病院が掲載されました。

<http://www.project-linked.jp>



中日新聞「リンクト」LINKED PRESENTS
病院を知ろう
KNOW! HOSPITAL AND MEDICAL
春日井市民病院
企画制作 中日新聞広告局 編集 プロジェクトリンクト事務局

地域の問題に
立ち向かう医師を育てる。
その第一歩。

HERE! e-LINKED
www.project-linked.jp/

LINKED-Plus22号
平成28年4月発行



中日新聞「リンクト」LINKED plus+
病院を知ろう

「人生を生ききる」を支えるために。
エンドオブライフ・ケア特集
春日井市民病院
企画制作 中日新聞広告局 編集 プロジェクトリンクト事務局

LINKED-Plus24号
平成28年11月発行

市民病院フォトギャラリー



こいのぼり



タリーズコーヒーオープン



EOL相談員研修



庭園



在宅医療導入研修



医療安全ラウンド



ミニ講話



3Dマンモグラフィ導入



絵画展示



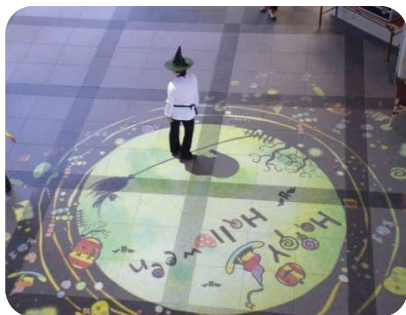
市民公開講座



緩和ケアウィーク活動



世界糖尿病デー



光の切り絵・幻灯展



クリスマス

監 修 渡 邊 有 三
編集委員 會 津 恵 司
坂 坂 田 洋 祐
上 村 睦 洋 美
橋 本 睦 健
渡 辺 寛

春日井市民病院年報 第4巻

平成29年11月30日 印刷

平成29年12月1日 発行

編 集 春日井市民病院年報編集委員会

発 行 春日井市民病院

〒486-8510 春日井市鷹来町1丁目1番地1

電 話 (0568) 57-0057

印刷所 木野瀬印刷株式会社

〒486-0958 春日井市西本町3丁目235番地

電 話 (0568) 31-3118
